美しい手賀沼を愛する市民の連合会

10年の歩み

目次

田口迪夫会長挨拶、星野保顧問挨拶　・・・・・・・・・　１

美しい手賀沼を愛する市民の連合会年表　・・・・・・・・・　２

加盟団体活動報告

我孫子市消費者の会　・・・・・・・・・　８
我孫子青年会議所　・・・・・・・・・　１０
我孫子の文化を守る会　・・・・・・・・・　１１
我孫子の景観を育てる会　・・・・・・・・・　１４
我孫子野鳥を守る会　・・・・・・・・・　１６
大津川をきれいにする会　・・・・・・・・・　１８
大堀川の水辺をきれいにする会　・・・・・・・・・　２０
岡発戸・都部の谷津を愛する会　・・・・・・・・・　２２
湖北座会　・・・・・・・・・　２３
沼南　手賀沼ボランティア会　・・・・・・・・・　２６
生活協同組合我孫子生活センター　・・・・・・・・・　２９
手賀沼にマシジミとガシャモクを復活させる会　・・・・・・・　３０
流山市立博物館友の会　・・・・・・・・・　３２
特定非営利活動法人せっけんの街　・・・・・・・・・　３６
ホームサイエンス倶楽部　・・・・・・・・・　３７
ふれあい手賀沼の会　・・・・・・・・・　３８
古利根の自然を守る会（平成１７年３月解散により退会）・・・　４０
水と土・手賀沼の会　・・・・・・・・・　４２
手賀沼漁業協同組合　・・・・・・・・・　４４
自治労我孫子市職員組合　・・・・・・・・・　４５
自治労柏市職員組合
自治労鎌ヶ谷市職員組合
自治労流山市職員組合

美しい手賀沼を愛する市民の連合会　会則　・・・・・・・・・　４６

表紙挿絵　梅津一晴（我孫子の景観を育てる会）

新時代の手賀沼を想う!!

会長　　田口　迪夫

１９７４年に＜日本一水質が汚濁された湖沼＞として、環境庁（現環境省）から水質の測定結果が発表された手賀沼は、名誉挽回に向けて、行政と市民が一体となった環境回復活動を続けてきました。多様な環境浄化手法を駆使して、２００１年、なんとかワースト１の汚名を返上することができました。

私たちは、環境浄化を目標にしてイベントを中心とする真摯な運動を続けてきました。行政も、我孫子市、柏市と千葉県の企画担当の方々を中心として、地域活性化のための研究会を発足させているようです。地域住民として何をすればよいのか、考えるだけでなく動き出す時がきました。

生態系を回復させることも重要です。動植物の生存環境を豊かにすることは、私たちの生活環境を素晴らしいものにすることに繋がります。

２１世紀の循環市民運動の“さきがけ”たらんと認識しています。地域コミュニティーの構成者一人ひとりが主役です。そして新しい手賀沼が動き始めます。

「美しい手賀沼を愛する市民の連合会」の誕生、そしてこれから

初代会長　星野　保

「美しい手賀沼を愛する市民の連合会」設立十周年を迎え、初代会長として設立当初および設立後十年間の活動を振り返り、今後の活動をいかにすべきかを考えてみたい。

手賀沼は、戦後の干拓に加え、バブル期の急激な流域の都市開発に伴う汚染により、日本一汚い沼となってしまった。また、湖北座会は、昭和５８（１９８３）年地元民を中心として生まれたが、創立当初から手賀沼の浄化に向けて学んで来た。

湖北座会会長星野七郎氏は、長い間手賀沼土地改良区理事長を勤め、手賀沼の研究に関しては右に出る者が居ないであろうと云われていた。その星野七郎氏の発案と尽力により、平成７（１９９５）年に、「沼と共に生きる周辺地域の自然・生活環境のより良いあり方を学習し、美しい手賀沼に蘇らせる」ことを目的とし、美しい手賀沼を愛する市民の連合会（略称美手連）が誕生した。

当初の会員は１４団体で、創立記念講演会は日本生態系協会会長池谷奉文氏の「これからの環境保護と市民運動」と題して行われた。次いで翌年７月には岩垂環境庁長官をお招きし、対話集会が持たれ要望書も提出されている。

連合会では、目的達成のために、「官民学は正しい情報を時を失することなく提供し合い、充分な意思疎通を図った人と人との触れ合いの中で、手賀沼浄化・周辺の環境保全に向かって相互に良きパートナーとなって努力する」ことを信条としてきた。その結果多方面の理解を得、会員は自治労４団体を含め、今では実に２３団体の大きな会となっている。

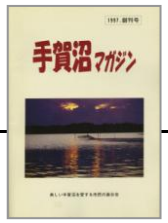
会全体の行事として、情報蒐集と県内外の環境市民団体との交流を目的として、年１回視察研修を実施してきた。これ迄に琵琶湖・諏訪湖・宍道湖（中海含む）・木場潟（宮城県）・福島潟（新潟県）・佐鳴湖（静岡県）・霞ヶ浦・渡良瀬遊水池・印旛沼・利根川下流等を歴訪してきたが、費用は全額参加者負担が美手連の特徴。

これらの活動の成果を経て、現在は国土交通省・千葉県・流域７市１村との各種協議事業が進んでおり、この間懸案の北千葉導水事業も完成し、手賀沼の水もきれいになり、最終目標に一歩近づいた。

１０年を経過すると私自身も高齢化し、会もマンネリ化しがちになるが、次世代を担う１０～２０代の市民に、手賀沼水環境保全協議会の事業等への理解と協力を得られるよう努力したい。

美しい手賀沼を愛する市民の連合会（美手連）結成以前の手賀沼関係
「手賀沼年表」（美手連発行）より抜粋

年代 西暦	年号	事　　項	備　　考 西暦	
			710	平城京 遷都
721	養老5	下総国倉麻郡意布郷戸籍の記録あり（正倉院文書）		
1130	大治5	相馬御厨の南の境界は 「南は志子多の谷ならびに手下の水海を限る」 （平経繁の訴訟記録）	1096	十字軍の 遠征
1636	寛永13	手賀浦から常陸川への第２排水路が開削され、 弁天堀のもととなる （手賀沼沿革史／白井町）	1637	島原の乱 起こる
1662	寛文2	新利根川を開削（竹袋村旧来記、手賀沼沿革誌）	1661	清が 中国全土を 統一
1670	寛文10	海野屋作兵衛ら手賀沼開墾を出願 （竹袋村旧来記、手賀沼沿革誌）		
1727	享保12	高田友清による千間堤建造による 手賀沼下沼干拓工事始まる （手賀沼沿革誌）		
1945	昭和20	農林省直轄の手賀沼干拓事業が閣議決定 （手賀沼の今昔）	1945	敗戦、 連合軍による 占領
1956	昭和31	手賀排水機場が竣工（関東農政局：手賀沼）		
1959	昭和34	手賀沼干拓工事第一干拓地が竣工（柏市史年表） 昭和30年代前半に住宅公団などの団地開発、 工業団地やゴルフ場の開発も	1960	安保反対 闘争
1974	昭和49	環境庁の湖沼汚濁ワースト1に手賀沼、 以来27年間1位となる（柏市史年表）	1975	ベトナム戦争 終わる
1999	平成11	北千葉導水路試験注水開始		
2000	平成12	北千葉導水路本格注水開始		
2001	平成13	手賀大橋の架け替え完成		

年次 年号 西暦	1 平成 7 1995	2 平成 8 1996	3 平成 9 1997
総会 講演会 講師 テーマ	拡大準備会 市役所西別館会議室 1995/10/22 総会(親水広場) 1995/12/3 講演会 池谷 奉文 (環境保護と市民運動)	総会(親水広場) 1996/5/26 講演会 後藤総一郎 (自然神人間共生ﾌｫｰｸﾛｱ)	総会(親水広場) 1997/6/22 学習会 川島信二(計画の説明) 石原正規(〃)
単独事業		岩垂環境庁長官と懇談 1996/7/27 	
共催事業			手賀沼流域フォーラム-1 1998/2/7 柏市民文化会館 佐々木愛+スライド シンポジウム コーディネーター:小林 節子
沼流域見学会		手賀沼見学研修会 1996/9/18	印旛沼研修 1997/11/10
研修視察会		琵琶湖研修視察旅行 1996/11/10~11 	宍道湖・中海研修旅行 1997/12/14~16 
出版物	We Love 手賀沼 1号 (個人として協力) 1995/10/20 		手賀沼マガジン 1号 (池谷、後藤、岩垂) 1997/3/31

年次 年号 西暦	4 平成　10 1998	5 平成　11 1999	6 平成　12 2000
総会 講演会 講師 テーマ	総会(親水広場) 1998/6/7 団体発表 (4団体)	総会(親水広場) 1999/6/6 手賀沼ビオトープ 見学会 	総会(湖北台近隣センター) 2000/6/4 星野保出版記念会
単独事業			
共催事業	手賀沼流域フォーラム-2 1999/2/13 我孫子市民会館 江戸家子猫ものまね 中学生事例発表 シンポジウム コーディネーター: 斉藤哲瑯 	手賀沼ふれ愛フェスタ-1 1999/7/10 親水広場+柏文化会館 真鍋長官挨拶 水辺ｲﾍﾞﾝﾄ 流域ﾌｫｰﾗﾑ シンポジウム コーディネーター: 佐藤陽子リサイタル 	手賀沼ふれ愛フェスタ-2 2000/10/28 親水広場 +我孫子市民会館 水辺ｲﾍﾞﾝﾄ 流域ﾌｫｰﾗﾑ 田部井淳子 環境学習　杉浦正吾 行政と懇談　環・建・県
沼流域見学会	霞ヶ浦見学会 1998/9/19	北千葉導水関連施設 1999/11/9 	北千葉導水第2機場 2000/8/3
研修視察会	諏訪湖研修 1998/11/19~20 	伊豆沼研修 1999/11/20~21 	水郷水都全国会議 2000/11/10 (台東区)
出版物	We Love 手賀沼 2号 (発行委員会の一員) 1998/3/31 手賀沼マガジン 2号 (作文集) 1998/3/31	 	

年次 年号 西暦	7 平成　13 2001	8 平成　14 2002	9 平成　15 2003
総会 講演会 講師 テーマ	総会(親水広場) 2001/6/3 講演会など無し 	総会(我孫子郵便局) 2002/6/2 行政来賓、会長交代 千葉県との懇談会 	総会(親水広場) 2003/6/8 講演会 佐倉保夫 (水循環の地下水役割)
単独事業			統一クリーンデー-1 2003/11/29
共催事業	手賀沼ふれ愛フェスタ-3 2001/10/27 親水広場.我孫子市民会館 水辺ｲﾍﾞﾝﾄ 流域ﾌｫｰﾗﾑ 見城美枝子 環境学習 行政と懇談 	手賀沼流域フォーラム-6 2002/10/12 沼南町中央公民館 中村 勝 環境学習 パネル展示 鳥ビシャ 写真 ビデオ 	手賀沼流域フォーラム-7 2003/10/4 柏市民文化会館 浅間 茂 環境学習 ﾐﾆｺﾝｻｰﾄ パネル展示
沼流域見学会	逆井リン除去施設 2001/10/2 	浚渫事業 2002/9/25 	北総浄水場 2003/9/18 印旛沼団体交流
研修視察会	木場潟研修視察会 2001/11/17~18 	佐鳴湖研修視察会 2002/11/30~12/1 	鳥屋野潟・福島潟 2003/11/15~16
協力事業			協働調査 2004/3/20~27
出版物	手賀沼年表 2001/6/15 		

年次 年号 西暦	10 平成 16 2004	11 平成 17 2005	12 平成 18 2006
総会 講演会 講師 テーマ	総会(親水広場) 2004/6/6 講演会 小林 節子 手賀沼浄化の課題と心 	総会(親水広場) 2005/6/5 講演会 古谷 一広 古利根の自然を守る会歩み 	総会(親水広場) 2006/6/11 講演会 浅間 茂 手賀沼はどう変わったのか
単独事業	統一クリーンデー-2 2004/10/24 	統一クリーンデー-3 2005/10/22 	統一クリーンデー-4 2006/12/3 10周年記念事業(アビスタ) 2006/9/2
手賀沼基金	手賀沼基金規定 2004/7/4	・我孫子の文化を守る会 ・大堀川ノ水辺ヲキレイニスル会	・大堀川の水辺を きれいにする会
共催事業	手賀沼流域フォーラム-8 2004/10/2 親水広場 飯島 博 環境学習 パネル展示 調査結果 調査教室 	手賀沼流域フォーラム-9 2005/10/8 親水広場 相原 正義 環境学習 パネル展示	手賀沼流域フォーラム-10 2006/10/7
沼流域見学会	霞ヶ浦アサザ基金 2004/9/10 	利根川船上視察会 2005/10/11 	
研修視察会	渡良瀬・足尾 2004/11/26~27 		
協力事業	協働調査 2004/5~6 2004/12/8~28 	協働調査	
出版物			手賀沼新聞 2006/9/2

団体名	我孫子市消費者の会
代表者名	和田三千代
連絡先 （ホームページ）	佐藤祐子　270-1144 我孫子市東我孫子 2-25-17　　電話 04-7169-2820 http://www.abiko-video.org/abikoshi-syouhisyanokai/insex.htm
発足年	１９７４年
会員数	１２５名
活動趣旨	「安心な食べ物」「手賀沼、ゴミを含む環境問題」「高齢社会への対応」の３つを柱とし、「我孫子の暮らしを考えよう～次の世代のために」をキャッチフレーズに活動しています。

活動状況やこれからの目標など

美しい手賀沼を愛する市民の連合会には、佐藤祐子さんを担当者として参加させていただいてまいりました。今後ともよろしくお願いします。

我孫子市消費者の会としては、上記に書いたように幅広い活動をしています。手賀沼とのかかわりで言えば、「合成洗剤をやめてせっけんを使う」ことを市民にＰＲしてきました。今回は大分昔のことになりますが、私達の会の取り組みの内、「遊歩道に看板を立てたこと」を中心に報告します。まず、１９８０年３月１３日付けの朝日新聞千葉版の記事を転載します。

「手作りの看板で手賀沼浄化ＰＲ　我孫子市消費者の会」

合成洗剤追放に取り組んでいる我孫子市消費者の会が１２日、汚れる一方の手賀沼を救うために粉せっけんの使用を呼びかけた手作りの看板を沼周辺の８カ所に立てた。これとあわせ同会は合成洗剤の恐ろしさを訴えたチラシ１万６千枚を作成、多くの市民に関心を持ってもらおうと近く街頭で呼びかける。

同市には、消費者の会や自然保護団体など１５団体からなる「我孫子にせっけんを広める会」が結成されている。合成洗剤追放の市民の輪を広げようとシャボン玉大会や講演会を開き、また、学校給食からの合成洗剤追放を市教委に働きかけるなど積極的な運動を繰り広げている。こうした中で今回、消費者の会は自分たちの手で追放を盛り上げようと看板作りをした。

看板は幅２０センチ、長さ９０センチの板を使い、２枚１組で８枚。「ふるさと手賀沼を粉せっけんで守りましょう」など３種類の標語を書いた。初めは外注しようと考え、追放運動の趣旨を説明したところ、ある程度値引きしてくれるとのことだった。　それでも「１０万円」。それでは自分たちの手で、と慣れぬ看板作りに取りかかった。板の表面をガスバーナーで焼き、ペンキを使って標語を書き入れるなど４日がかりで仕上げた。

この日、同会の主婦たちや市の働く会のお年寄りが出て、沼べりの遊歩道にある県の手賀沼水質浄化対策協議会の看板に便乗して取り付けたが、なかなかの出来映え。作業を終えた和田会長は「県も有リン合成洗剤追放を打ち出し、一歩前進したが、まだまだです。市にも合成洗剤追放を呼びかけているが、一人でも多くの市民がこの追放運動に目を向け、実践して欲しいものです」と言っている。

２６年も前の記事をあえて載せたのは、５年前に環境省がＰＲＴＲ法（環境汚染物質排出と移動登録）の中で、合成洗剤の害を認めたので、せっけん使用をもう一度多くの市民に呼びかけていきたいと思っているからです。

まず、美手連の会員団体の方々、それぞれの会でせっけん講習会を企画してください。佐藤祐子さん、竹中真里子さんたちが、見事な講習をしてくれます。浄化は一人一人の意識と行動から生まれると信じています。

手賀沼べりに立てられた手作りの合成洗剤追放看板＝我孫子市の手賀沼公園で

団体名	**社団法人　我孫子青年会議所**
代表者名	2006 年度　第 23 代理事長　米田　友義
連絡先 **(ホームページ)**	http://www.abiko-city.jp/jc
発足年	1984･9･15
会員数	25 名(7 月末現在)
活動趣旨	地域社会への貢献活動･自己啓発

活動状況・今後の目標

全体事業として毎年 5 月に行われている「Enjoy　手賀沼！」は、年々我孫子の街でも認知度が年々増し、今年も大盛況でした。新しい試みとして「熱気球」を上げました。また「稚魚の放流」は、毎年子供たちに限らず大人も一緒に楽しめるイベントの一つです。「Enjoy　手賀沼！」を通じて、あびこを担う子供たちに「手賀沼」を知るための切っ掛けを創ることが出来ればと思います。この他に、メンバー自身のスキルアップを図るため、趣向を凝らしたプログラムやセミナー等を例会として行い、一人ひとりが前向きに考えそして実行できるよう自己研鑽にも励んでいます。今後も私たちの住む「あびこ」のために貢献できるよう活動していきたいです。

2006Enjoy 手賀沼！
中学生による吹奏楽演奏

2006Enjoy 手賀沼！
初の試み！！熱気球
天気が危ぶまれましたが、無事上げることができました。

我孫子の文化を守る会

－我孫子の自然と文化遺産を守り、新しい文化の発展を願って２６年－

緑と水の豊かな手賀沼辺りに、公園での子ども達のはしゃぐ元気な声、バードウオッチングやサイクリングを楽しむ人達、ガイドブックを片手に文人達の旧居を訪ねる市外からのグループ、昨今の沼辺の賑わいはこの地に住む私達に誇りと幸せを実感させてくれます。

「我孫子の文化を守る会」が発足した昭和５５年当時、都心から僅か３０分余の所に、このように自然に恵まれ、由緒ある史跡も数多くある我孫子市に、関心を持っている者はごく限られた人達でした。むしろ手賀沼の長期にわたる汚染がメディアによって広く知られ、東京近郊の行楽地に不向きのように思われていました。

それから四半世紀、我孫子市では一般市民と行政の地道な学習や研修、中央への働きかけが功を成し、２７年間続いた手賀沼の水質ワースト１を脱却し、現在９位まで下がりました。目標とするＣＯＤ５mg に近づきつつあります。

近代文学史上に注目される市内に点在する文人ゆかりの地も「白樺」の人達ばかりでなく、多くの文人達が居を構え、また作品の舞台になっていることが徐々に解明し、文学愛好家に知られる存在になってきたことは嬉しいことです。近年、NHK ラジオの文学講座でも、前近畿大学教授の井上謙先生が我孫子文士村として当市を文学散歩の好適地と紹介されていたことは皆に知って欲しいことです。

「我孫子の文化を守る会」は今年創立２６周年を迎えました。市内の文化団体の草分けとして自負していますが、今顧みますと先輩たちのこの会へのなみなみならぬ情熱に頭が下がる思いです。

当会は昭和５５年７月に〝我孫子の自然と文化遺産を守り、新しい文化の発展に資すること〟を目的に、「志賀直哉邸跡地」を保存しようと集った有志で結成された会です。志賀直哉邸跡地は一万人を越える署名簿が我孫子市市議会に提出され、採決されて市が買収を決定したのです。買収が決定後、解散を惜しむ声があがり「我孫子の文化を守る会」が誕生しました。

まず、初代兵藤純二会長以下の役員を決め、志賀邸の夏草刈から清掃へと、手造りの案内標柱を建てることから始まりました。

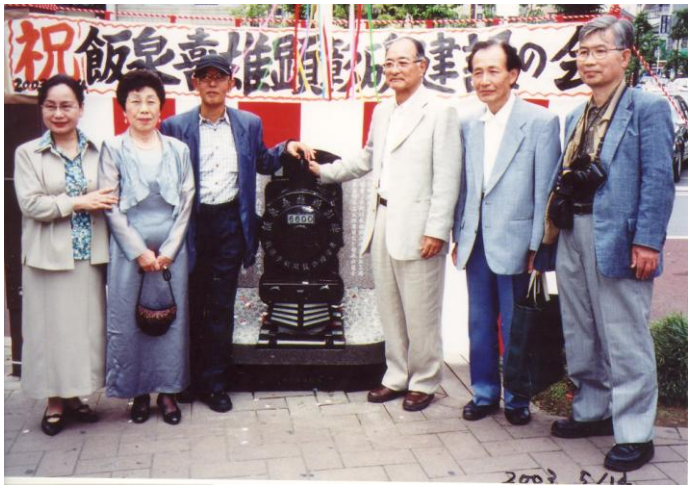
ついで、市内の「白樺派」研究の第一人者であった会長自らが講師となり、学習会が行われました。そして市内に散らばる幾つかの史跡を結び、実際に歩いて資料を作成し、史跡文学散歩へと発展していきました。この史跡散歩は市内・市外多数の人達から好評を得て、毎年３回ないし４回実施され、本会を代表する事業として今日まで続いています。現在ではその回数も８１回を重ね、時には都内や近隣の街々にも出向き、我孫子宿旧領主の山高氏の菩提寺・宗参寺を中心に早稲田界隈を訪ねたり、志賀直哉や中勘助、国木田独歩など我孫子ゆかりの文人達が眠る青山霊園、柳宗悦の民芸館など、巾を広げたコースを開拓して、会員ばかりでなく一般市民の人達にも広報やミニコミ紙などで知らせ、一緒に楽しんでいただいています。

当会での盛況な催しに、５年ほど前から行われているユニークな放談クラブがあります。会員の中には豊かな人生経験を持つ人が多く、格別の分野も決めず、各々の体験や日常の思いを胸襟を開いて話してもらおう、聞いてみようという会です。和気あいあいと耳を傾け質問も受け、語り部の思い掛けない人柄や貴重な体験を知ることができます。偶数月第一日曜日、毎回２０名ほどの会員が集り好評です。すでに二十数回を重ねていますが、語り部を探すのに役員が苦労しているというのが本音です。

平成６年に手賀沼浄化の願いをこめて全国からの公募により６５５首の歌を集めました。選考の上「手賀沼百人一首」を発刊し、マスコミにも取り上げられ、どんなイベントより感動したという声もあり、大きな反響がありました。続いて８年に同じく公募により手賀沼をこよなく愛する人達からその想いを詠んだ８１８句が寄せられ、現代の生き証人ともなる「句集　手賀沼」を発刊することができました。この刊行には柏市の財団法人寺島会館より「独自な発想の文化活動を行っている」ということで助成金が交付されました。

また平成１７年には創立２５周年記念として、ワースト１を脱却し、改善された今日の手賀沼を再び短歌にして詠んでみようと「歌集手賀沼短歌」が誕生しました。２回の短歌講座を開催し、「新アララギ」の歌人でもある三谷和夫会長の指導のもと、短歌を詠んだことのない人にも親しんでもらおうと呼び掛けたこともあって２００名５５０首もの歌が集り、その作品の大半は再生手賀沼の感動を詠んだものでした。現在、当会の三部作ともいえるこれら３冊のうち、短歌集は手賀沼遊歩道の文学の広場に設けられている展示板に、網川タネ子会員の流麗な筆で認められ、地元短歌会の作品とともに道行く人達に見ていただいています。

平成１５年５月、我孫子駅前に一基の顕彰碑が建立されました。飯泉喜雄顕彰碑です。明治２９年１２月に我孫子駅が開設されましたが、その功労者の飯泉氏のことは百年を過ぎた今日、郷土史家の外は全く知られていませんでした。駅誘致に個人の資産の大半を鉄道会社に無償で提供し、我孫子町の発展の礎を作った飯泉氏を地元の恩人として、また未来に続く郷土愛を育む原点となることを願い、建設しようという声が会員の中から上がりました。「我孫子市商工会」「ふれあい塾あびこ」「我孫子ロータリークラブ」「我孫子ライオンズクラブ」「あびこガイドクラブ」「我孫子青年会議所」等にも賛同をいただき、三谷会長が「飯泉喜雄顕彰碑建設の会」会長となり、市内・市外千三百余名の寄付金と行政の協力で無事建立することができました。



飯泉喜雄顕彰碑にて

平成１５年８月『我孫子　みんなのアルバムから』の発刊でも、当会の会員達が掲載写真の歴史的解説や写真発掘のお手伝いをさせていただきました。市内の各家庭に残る明治中期から昭和末期までの写真から、地元庶民の生活や手賀沼との関り、そして沼の変遷を貴重な記録として残すことができた写真集です。内容・装丁とも素晴らしく、地元出身の主婦達が中心となって発足した「みんなのアルバム同好会」の快挙でした。

この２例に限らず、「我孫子の文化を守る会」では横の繋がりを大切にして「美しい手賀沼を愛する市民の連合会」をはじめ、多くの友好団体と互いに連携・協力し、各自の持てる特性を充分に発揮して大きな目的が達成できることを願っています。「我孫子市教育委員会」「白樺文学館」「ふれあい塾あびこ」との共催で実現した「阿川弘之氏講演会」や「坂上弘氏講演会」、「脇本陣」や「旧村川別荘」の保存運動でも多くの個人や団体から協力をいただき、無事保存をすることができて感謝しています。

発会当時、「３年継続できるだろうか」と懸念をしていたとのことですが、会員・会員外の皆様の協力を得て現在に至っています。その間に「絵はがき」発行、２０周年記念誌『東葛・我孫子・手賀沼』の発刊、「郷土美術展」の開催、

「手賀沼周辺の民話」採集など実施してきました。

毎年５月に開かれる総会のあとの文化講演会は、第１回以来市内で催される恒例の講演会の代表的なものの一つではないかと思います。歴史・文学・自然・環境など今日的なテーマを設定し、多彩な講師をお迎えしています。独自の講演会として、「白樺」ゆかりの人々（柳宗理氏、紅野敏郎氏等）、文芸関係（坂上弘氏、金子兜太氏、宮地伸一氏等）、郷土史関係（山本鉱太郎氏、芦原修二氏等）、自然環境関係（深山正巳氏、柿沢亮二氏）、工芸関係（岩村守氏等）と、三十数名の講師の方々にお話をしていただきました。今年は、我孫子市鳥の博物館館長で昨年まで山階鳥類研究所に勤務されていた杉森文夫氏に、「カワセミ研究の紀宮さまと山階鳥類研究所」のテーマで講演していただきました。

このように著名な先生方の話を聞く一方、会員の中で特別な技能や知識を持つ人達が、公民館行事や市内の団体、学校等に出向き、文化や歴史などの学習会での講師を勤めることが多くなりました。微力ながら有意義な活動です。

平成１４年１１月東葛地区では最も代表的な賞の一つである第１１回「ヌーベル文化賞」を当会が受賞しました。「地域に文化を通して多大な功績がある」と評価されたということです。

また平成１７年６月には千葉県郷土史研究連絡協議会から、当会の活動に対して「郷土史研究奨励賞」が授与され、さらに７月には我孫子市市制３５周年を記念して「教育文化功労賞」を受賞しました。発会以来、郷土を愛する熱意のみで会員一同励んできましたが、思い掛けなく続いて賞を受け身が引き締まる思いです。

今後は手賀沼のさらなる浄化、自然や史跡の保全、文化発展を願って、市民の皆様と共に新しい街づくりに携わっていきたいと思っています。

（越岡　禮子）

志賀直哉邸跡の書斎にて

我孫子の景観を育てる会　　会長　吉澤淳一

当会は、平成 13 年市主催の「景観づくり市民講座」に参加者した人たちが名称した”我孫子の景観を育てる会”として発足しました。 設立総会は同年の 6 月に行なわれ、初代会長に佐多英昭が選出されましたが会長の都合もあり、平成 １５年の役員改選時に現会長が選出されました。

Ⅰ　グループ活動

＜　街並部会　＞

千葉県福祉ふれあいプラザ、八坂神社交差点付近街路樹、新設 3,4,14 号手賀沼公園・久寺家線、公園坂通り等をテーマに取り組み、現在、公園坂通りをイメージする会（仮称）設立に向けた活動をする中、三鷹市コミュニティゾーン（道路）の視察も行った。また高野瀬会員は「白山住宅街の生い立ち」の資料を作成した。

＜　歴史部会　＞

我孫子・久寺家城址めぐり、手賀沼からの我孫子再発見、布佐散策、「美しい日本の歩きたくなる道 500 選」で千葉県トップに選ばれた「手賀沼と我孫子の歴史を訪ねる道」、「湖北―新木の鎌倉道」などの散策を行っています。現在その散策コースの紹介をホームページの「我孫子の歴史景観を探る」シリーズで好評掲載中です。

我孫子の歴史景観を探るスケッチ：千間堤

＜　美化部会　＞

利根川河川敷ほか各地の不法投棄塵の処理、我孫子駅周辺、つくし野を中心とした道路清掃、“手賀沼クリーン清掃統一デイ”に参加する一方、高野山小でのメダカ飼育・ザリガニ大会など行いビオトープの教育問題にも関わりました。

＜フィールド部会　＞

坂道ウオーキングマップ　PART Ⅰ～Ⅴは都市計画課発行の「ハケふれ２１」に引用資料となり、好評の「我孫子の桜マップ」は第２版を重ね、市図書館は無論、県立図書館にも置かれています。

＜　広報　＞

会報誌の「景観あびこ」は年 4 回 500 部、平成 18 年 6 月現在 18 号を発行しています。インタビューは我孫子の景観先駆者の村山祥峰さん、日暮朝納さん、星野保さん、井上基さん、渡辺照夫さん、そして“我孫子の景観を育てる”方々ともいえる、景観賞受賞の日立総合経営研修所社長関島康雄さん、「あおむし君のおうち」菅野みどりさん、「大原邸ガーデン」大原素子さんに行われました。

＜　ホームページ　＞

平成 15 年 10 月に特別会員　森大吾氏のご協力で開設しました。「お知らせ事項」、広報誌「景観あびこ」、会員作成の「レポート類」・「資料」などがすべて掲載してありますので、活動の全容を知ることが出来ます。

Ⅱ　会活動

＜　景観散歩　＞

古い街並を保存する茨城県阿見町、旧真壁町、栃木市、大多喜町、横浜市山手 234 番館・BankArt、鎌倉市など我孫子の景観を考える上で参考にな

る他市町の街並散策を行っています。

＜　講座　・勉強会　＞

　ウォーターフロントの権威　日大横内教授を招いた市民講座を企画し、出前講座の「道」「公園」「農業」や「景観法」、松本庸夫氏の「手賀沼北岸の湧水」の勉強会なども行なってます。また講演会には講師・村山祥峰氏をお招きし「三樹荘の今昔」を受講しています。

＜　発表・意見交換・主張　＞

14 年度　；　シティア・ギャラリーで「昔の我孫子はどんな顔」「今の我孫子のここは何処」「見上げてご覧我孫子の空を」を展示した。また第４回景観シンポジュームを主催し千葉大宮脇勝助教授に基調講演をお願いしました。

15 年度　；　日立庭園公開に併行の「我孫子の庭園を考える」公開座談会と”都市の日”行事として「話合いませんか我孫子の風景を」の討論会を湖北公民館で行いました。

16 年度　；　「井手口邸（旧嘉納治五郎別荘跡）斜面緑地保存」を訴えた市長への要望書を提出しました。

17 年度　；　会発足 5 周年に当る本年度は有意義な多くの発表がなされました。

　手賀沼学会で富樫会員は［手賀沼景観ガバナンス］の提唱、梅津会員は「我孫子の風景と“手賀沼・利根川”」の論説展示を行いました。吉澤会員は「のぼり旗調査」報告書を都市計画課に提出しました。これら会員の主張は昨今の市行政に反映されています。

　会発足 5 周年記念の第一回景観コンサート“サウンドスケープイン・あびこ”「手賀沼の四季」は湖北公民館で行われ、200 人を越える入場者があり絶賛を博しました。

＜　参加・交流活動団体　＞

　谷津ミュージアム、エンジョイ手賀沼、手賀沼流域フォーラム、市民活動フェア２００５、景観形成市民会議、美しい手賀沼を愛する市民の連合会、てづくり散歩市などに参加して多くの団体と交流を行っています。

＜　景観行政への協力　＞

　「我孫子市市民活動元気づくり事業」参加と「旧嘉納治五郎別荘跡活用計画」を市へ提出し、また「旧村川別荘の活用」に向けた提案、「我孫子市景観基本計画の見直し」に関する意見交換など、会として培われた“ノウハウ”を基にした協力を行っています。

＜　美観保存活動　＞

　三樹荘と天神坂の清掃を行う“三樹会”を平成１７年春に結成し活動しています。

＜　庭園見学　＞

　日立製作所中央（研）庭園、日本電気我孫子（事）四つ池、かじ池、旧武者小路邸、「オープンガーデンみやぎ」、ロイヤルグループ我孫子研修所庭園、八日市場市平山邸庭園公開、久留里城址、横浜長屋門公園などを見学し、私所有庭園の公開事業に関わる見学を行っています。

オープンガーデンみやぎ見学

＜　庭園公開事業　＞

　平成 14 年秋以来春秋年二回の「日立総合経営研修所の庭園公開」、また我孫子ゴルフ倶楽部では１５年春からは「市民観桜会」が、それぞれ企業のご協力のもとに行われ、市民に親しまれる年間行事になっています。

（文責　　梅津一晴）

我孫子野鳥を守る会

会長　間野吉幸
住所　〒270-1154　我孫子市白山 1-9-4
染谷迪夫方　　Tel&Fax　04-7182-3972
年会費　2,000 円　　会員数　201 名（‘06.04.01）

[会の目的]

鳥類は生態系の上位に位置していますので、鳥類が生きていける環境を守ることは豊かな自然を守ることに他なりません。つまり、野鳥を守ることは野鳥が生息する自然全体を守ることです。　従って、鳥類を守ることは、植物も、昆虫も、土の中の生きものも、豊かな自然の生態系を構成するすべての生きものを守ることにつながり、これは私たちの生活環境を守ることにもつながっています。

我孫子野鳥を守る会は 1972 年（昭 47）3 月 21 日設立以来 34 年間、手賀沼を中心に我孫子市周辺の野鳥の観察、保護などの活動を続け、人と野鳥が共存できる豊かな社会をつくり、伝えていくことを目的として活動を行っています。我孫子市には日本初の鳥専門の「鳥の博物館」、東洋一といわれる鳥類研究のメッカ「山階鳥類研究所」があり、当会も含め相互に交流を深め、鳥の啓蒙活動で協力し合っています。

[主な活動内容]

会報「ほーほーどり」の発行

会の行事予定、実施報告、会員の野鳥情報等を掲載、隔月に発行して会員に送付する他、行政機関、市内の学校等に贈呈しています。

手賀沼探鳥会（バードウオッチング）

1976 年から定例的に毎月第２日曜日、午前９時我孫子市役所前集合、申込不要、参加費不要で実施しており、野鳥観察に関心がある市民に広く参加を呼びかけています。

遠出探鳥会

地元を離れ、環境条件等が異なる遠隔の探鳥地を、日帰り（年 7、8 回）又は 1 泊（年 2、3 回）で訪れます（会員対象）。これは鳥を勉強するだけでなくレクリエーションとしても人気があります。

探鳥会の指導等

市内外の学校、公民館、各種団体等から“手賀沼の野鳥を観察したい”という要望には随時これに応え、会員が案内、説明などを実施しています（年 7～8 回）。

環境保全活動

会として積極的に取り組み、手賀沼周辺のゴミ清掃、サギ科の集団営巣地の清掃、ホタルの自然繁殖を助けたり、野鳥の巣箱をかける活動などを行っています。

裏磐梯探鳥会

[最近 10 年間に実施したメイン行事]

5 月 10 日～16 日のバードウィークに合わせて（財）山階鳥類研究所、我孫子市鳥の博物館と共催の「Ｅｎ joy 手賀沼！」で市民参加のバードウィーク手賀沼探鳥会を実施しています。

平成 13 年より毎年 11 月に開催される「ジャパン･バード・フェスティバル」に参加し、ブースで野鳥に関する展示を行い、船上バードウォッチングを担当し、定点バードウォッチングを実施しています。

［調査］

手賀沼水鳥カウント

1977 年 1 月から継続して月 1 回、手賀沼の水鳥の種類と個体数を調査しています。

手賀沼ビオトープの鳥類調査

1999 年 5 月にビオトープが完成して以来、現在まで、月 1 回ビオトープ内で鳥類の調査（種類、個体数カウント）を続けています。（千葉県環境財団から受託）

我孫子市谷津・水田等自然環境調査

平成 13 年度は岡発戸・都部の谷津、日秀の谷津、上沼田水田、江蔵地水路でも同様に月 1 回の鳥類調査を行いました（2001 年度県環境財団から受託、終了）。なお、岡発戸谷津については 2002 年度も国土環境㈱からの依頼で月 1 回の鳥類調査を実施しました（終了）。

［研究報告］

前述の 1977 年から始めた手賀沼水鳥カウントの集大成として、1993 年までのデータを集計、分析して 1994 年に『手賀沼の鳥』を刊行しました。（創立 20 周年事業）　さらに、その後のデータを加え新たな視点から分析した『手賀沼の鳥Ⅱ－３０年間の変遷』を 2004 年秋に刊行いたしました。（創立 30 周年記念事業）

この調査データをもとに 2004 年 11 月「ジャパン･バード･フェスティバル」、2005 年 7 月の手賀沼学会、10 月の手賀沼流域フォーラムにおいてパネル展示により調査報告を行いました。

2005 年 11 月の我孫子市環境レーンジャー主催の公開学習会、及び 2006 年 2 月開催の「市民活動フェア in 我孫子 2006」において、当会長間野吉幸が、減少傾向を示す手賀沼の水鳥の種類と個体数の推移とその原因について調査分析に基づき講演を行いました。

［受賞内容］

1982 年 11 月

千葉県東葛飾地区社会教育連絡協議会より　感謝状

1985 年 6 月

高橋敏夫氏（個人）千葉県環境賞

1986 年 5 月

日本鳥類保護連盟会長表彰

1989 年 6 月

高橋敏夫氏（個人）　環境庁長官表彰

1995 年 4 月　　生活文化賞

1995 年 12 月

千葉県より　ちば環境文化賞

1998 年 6 月

平成 10 年度野生生物保護功労者賞

2003 年 6 月

環境省より　地域環境保全功労者表彰

2005 年 11 月

我孫子市より市制施行３５周年記念、市政功労者表彰式で、「環境功労賞」

ジャパンバードフェスティバル参加

★　北千葉導水路が稼動してから気付いたこと

当会は長年、手賀沼の水鳥をカウントしてきたが、導水路が稼動しだしてからカモの仲間で、ハシビロガモが著しく減少したように思われる。

（染谷　迪夫）

“大津川を甦らせ、再びホタルの里に”を夢にスタート
発会３年目の「大津川をきれいにする会」です

私たちの会の活動の中心になっている大津川は、鎌ヶ谷市佐津間の白幡橋を起点に北流、さらに柏市を北に流れて手賀沼の南西部に注いでいる、手賀沼水系に属する全長約８kmの１級河川です。（鎌ヶ谷市佐津間の白幡橋より上流は、準用河川・普通河川となります）。

東京近郊にありながら、この大津川を中心に両側には水田・畑・斜面林と、日本の原風景が残され、水量や数は減少しましたが、なお小さな湧水池が点在しています。

また、幸いにも「日本一汚れた沼」手賀沼が、1996（平成８）年から県によるヘドロの浚渫、2000（平成12）年から国による、利根川の水を一部手賀沼に注入する北千葉導水路により、汚染度が回復傾向に転じました（平成14年度は全国湖沼水質ワースト９位、16年度はワースト４位）。

しかし、手賀沼汚染の元凶が、家庭排水を中心とする大堀川と、この大津川の主要２河川であることには変わりなく、水質汚染もさることながら、ゴミによる汚れも目に余るものがありました。

千葉県では、(1) 平成12年度より、大津川の洪水を防ぐため川幅を広げ、できるだけ自然に近い形の堤防 ― 堤防上には遊歩道 ― を築くという「大津川多自然型川づくり」事業、(2) 平成15年度より、「自然の水循環」を重視し、雨水浸透マスや透水性舗装を増やし、下水道普及率を高める「手賀沼水循環回復行動計画」、の２つをそれぞれスタートさせました。

そこで、私たちは一昨年（平成16年）の４月、“大津川を甦らせ、再びホタルの里に”を夢に、かつて清流といわれた大津川を少しずつでもきれいにしていきたい、と「大津川をきれいにする会」を立ち上げました。

○主な活動

(1) 大津川の清掃…年８回（原則として、実施月の第３日曜）
(2) 研修親睦行事…年４回（土曜）。散策ウォーキング（大津川流域の自然と歴史を歩く）、講演会、新年会など
(3) ホームページによる会の活動紹介
(4) 会報「せせらぎ」の発行…Ｂ４版、月１回発行
(5) その他…平成17年度の主な活動実績参照

○平成17年度の主な活動実績（概要）

(1) 大津川の定期清掃…表参照
(2) 研修親睦行事
①５月７日（土）…散策ウォーキング「大津川の源流を訪ねる」高柳南台公園…かにうち橋…鮮魚（なま）街道…佐津間城跡…渋谷総司生家…白幡橋…栗野の森…川中の湧水…鎌ヶ谷市制記念公園（昼食）…南初富（源流）…初富駅（新京成線）（行程 約8km）
②７月２日（土）…講演「手賀沼干拓の

平成１７年度　　ゴ　ミ　拾　集　量

回	月／日	清掃場所	①袋	②袋	③㎥	主な粗大ゴミ
1	4/17	山王橋下流～柏市境界	29	1.5	3.5	自転車・自動車タイヤ・消火器各1，塗料缶5，他
2	5/22	関根橋～無名橋⑪	19	3	6	バイク1，自転車4，タイヤホイル・ストーブ・キーボード各1
3	6/19	無名橋⑪～支流合流など	13	2	5.5	バイク1，自転車4，自転車タイヤ多数，物干し台1・鉄枠各1他
4	9/18	無名橋⑫　中　心	17	3.5	4	自転車1，自動車タイヤ3，パソコン・石油ストーブ各1，他
臨時	10/15	無名橋⑤～鎌ヶ谷市境界	22.5	3	10.5	バイク・自転車・じゅうたん各5，自動車タイヤ3，ステレオ1他
5	11/20	芦川橋　中　心	31	3.5	3	バイク1，自転車3，自転車車輪・タイヤホイル・タイヤ各1，他
6	12/ 4	宮下橋中心・周辺道路	32	2.5	5.5	バイク1，自転車10，テレビ2，金庫・パソコン各1，他
7	3/ 5	下橋中心・周辺道路	38	2	2.2	バイク・鉄パネル<200×50cm>・スチール椅子各1，他
8	3/26	下橋下流～権現橋	42	2	8	ドラム缶・自転車・テレビ・マットレス各1，自動車タイヤ3，他
合計			243.5	23.0	48.2	バイク10，自転車29，自動車タイヤ11，タイヤホイル2，テレビ3，パソコン2，ドラム缶・消火器・金庫各1，ストーブ2他

＊平成16年度の合計（清掃回数：６回）…①106.5袋　②10.0袋　③20.5㎥（バイク2、自転車12、自動車タイヤ5、他）

＊①…ビニール・プラスチック・ペットボトル・可燃物類　②…缶・ビン・不燃物類　③…粗大ゴミ　袋の大きさ…①・②とも75ℓ

歴史」、講師：中村勝氏（柏市史編纂委員 中村順二美術館長）、於沼南幼稚園ホール

③11月５日（土）…散策ウォーキング「バードウォッチングをメーンに」福寿院…神明社（展望）…藤心陣屋跡…宮下橋…宮根橋…増尾城址公園（昼食）…法林寺…新柏駅（東武線）（行程 約7km）

＊会以外に、11名（柏市立大津ケ丘第二小学校４年生８名、担任安井和子教諭、保護者２名）参加

(4) その他

①手賀沼流域協働調査（河川水質・水生生物・湧水調査）

・河川水質・水生生物調査（大津川）
かにうち橋・馬渡：５月22日（日）
２月２日（木）

・湧水調査
中の橋前・大井小山台：５月25日（水）

②高柳盆踊り大会…７月30日（土）・31日（日）、模擬店に参加

③第９回手賀沼流域フォーラム…10月１日（土）、パネル展示に参加

④かしわ環境ステーション・オープン記念行事…10月２日（日）、パネル展示に参加

⑤手賀沼統一クリーンディ…10月22日（土）、ひどり橋～手賀大橋の南岸清掃

○会員数（平成18年６月末日現在）
５４名（男性：36名、女性：18名）

○ホームページ・アドレス
http://www.geocities.jp/myzbe/

大堀川の水辺をきれいにする会の 10 年

１．会の概要

大堀川の水辺をきれいにする会は大堀川に愛着を持つ有志が集まって、ボランティアで水辺の清掃や生き物調査などの活動を続けています。始まりは平成９年「川に捨てられた自転車を引き上げよう」との声で春３月に冷たい小雨降る中集まった面々が自転車などを多数引き上げ、新聞も「ついに市民も立ち上る」と報道、終了後のご苦労さん会で来年もやろうじゃないかということになって会が発足しました。美手連と同様本年で１０年目を迎えることになります。

その後清掃を主体にしながら新しいことにもトライを続け現在は次のような活動を行っています。

①春秋に市民と一緒に水辺大掃除、月１回の会員清掃
②夏に子供たちを集めての生き物調査
③水質・水性生物の調査
④小学校総合学習に参加や展示会へ出展等の啓発活動
⑤土手を利用した花壇作り（北柏橋傍の堤防で花壇を作りましたが葛が蔓延り最近ギブアップしました）

月 1 回例会を持ち、何時も２～3 時間熱のこもったやり取りで計画作りや情報交換をしています。

２．大堀川の概要

大堀川は江戸川台などを発して高田を経由する本流系とこんぶくろ池その他から集まって地金堀を作り本流に合流する地金堀系の二つの流れから成っています。

昭和 10 年代までは北部一帯は森林で、その麓から湧き出す水が池を作りそこを水源とする大堀川はきれいな川でした。それが昭和 30 年代から開発が始まり森林伐採で湧水は枯渇し水源池は消滅していきました。

現在の水源は家庭排水・工場廃水と雨水で，湧水はこんぶくろ池等ごくわずかしかなく、コンクリートの水路が多いため自然の浄化力があまり働きません。このため一時は臭く汚い川になってしまいましたが、周辺地域の公共下水道の整備や北千葉導水の注入等により段々市民が親しめる川に戻りつつあります。

３．清掃活動

１）市民に呼びかけての大掃除

平成９年のスタート以降、毎年市民の皆さんに呼びかけて春は６号線下からふるさと公園まで、秋は高田近隣センター付近の勝橋から昭和橋までの清掃を行い恒例行事として地域に定着してきました。また平成 15 年から始まった美手連主催の手賀沼統一クリーンデーには柏地区の主担当として参加しています。

準備は計画立案に始まって案内チラシの作成と配布、掃除道具の調達と整備等々なかなか大変ですが、この苦労も我々には楽しみの一つなのかもしれません。

当日は集まった方々が担当する区域毎に分かれて川の周りと川の中の両方のゴミを拾います。川の中のゴミは竹竿の先に熊手やすくい網をつけた手作りの道具を使ったり、胴長をはいて川に入ったりして集めます。深いところはゴムボートが出動します。大物はロープをくくりつけて陸上から大勢で引き上げます。

終わったら広場でご苦労さん会を開きビールやおにぎりで参加の皆さん同士が賑やかに交流します。

参加者は第１回の約 80 名以降増えたり減ったりでしたが、ＰＲ方法を色々と工夫し 16 年秋の高田地区で初めて 100 名を突破、18 年には春のふるさと公園地区でも大台に達しうれしい手ごたえを感じています。

２）会員清掃

市内の大堀川はどこも常時きれいにしてゴミを捨てにくい環境にすることを目指し、会員が月 1 回の頻度で青葉橋からふるさと公園の間を順次清掃しています。18 年度には流山市内にも足を踏み入れる予定です。

３）ゴミの状況

会の発足時に標的にした自転車類は明らかに減少しました。しかし包装用プラスチック類主体の一般ゴミは掃除した後すっきりしてもいつの間にかまた溜まっており、特に橋際のポイ捨てゴミは相変わらずです。それでもやっと最近は掃除の度に以前よりずいぶん少なくなったと実感できるようになり、活動への勇気が湧いてきています。

４．大堀川の生き物

大堀川の掃除をしていると当然ながらどんな生き物がいるんだろうと関心が湧き、平成 10 年頃からいろいろと調査を試みましたが、13 年には、本流と地金堀の合流点においてカラス網を仕掛け地金堀に逃げ込んだ魚を追い出して子供たちがこれを網ですくうというやり方に成功し、以降この方法で毎年夏に子供たちを集めて生き物調査をしてきました。

子供たちは初めこわごわが次第に大胆になり、びしょ濡れになって魚を追いかけあちこちで喚声が上がります。平成 15 年からは環境アドバイザーの鈴木優子先生に捕った魚の解説をしてもらっています。

15 年の調査ではコイを初めゲンゴロウブナ、ヨシノボリなど 13 種類に上る魚とスジエビ、アメンボウなど 6 種類の生き物が確認できました。この中には千葉県のレッドデータブックに載っている保護上重要なメダカ、ギンブナ、モツゴも含まれています。また年々捕れる魚が増える傾向にあります。

鈴木先生のコメントでは、ハス、ワタカのような北千葉導水による利根川からと思われる魚も居る一方で、近くで産卵、生育しているらしい幼魚も見られ、水質はまだよくはないが水辺の生息環境が残っているところに生き物が戻りつつある、とのことでした。

この調査結果は会の報告書として作成しましたが、16 年以降も大体同じような調査結果が続いています。

５．大堀川の水質

活動の中で大堀川の源流はいったいどうなっているんだろうとの声があがり、14 年に本流系は流山市の駒木台あたりまで地金堀系は柏市の大室周辺までを踏査し、その時に同時に透視度や COD を測定しました。これにより上流には家庭排水や工場廃水で相当に汚れたところがあることやつくばエクスプレス開発に伴い旧柏ゴルフ場内の湧水も消えることが分かり、この結果をもとに市や企業庁などと意見交換もしました。

平成 15 年からは手賀沼水循環回復行動計画による水質・水生生物の協働調査が開始され、大堀川については当会が主担当となりそのほかの団体と一緒に毎年春と冬に調査を続けています。その水質結果を大まかに要約しますと、高田地区以東の本流系は COD が 5～10 と割合良い状態でほぼ安定していますが、地金堀系は汚い支流が入ってくるため COD10～15 と高めで推移しています。本流系は北千葉導水の注入が効果を挙げているほか、下水道の整備や流山市の遊水池の効果が寄与しているのではないかと推定されます。

なお、17 年には地金堀でのユスリカ発生問題に関する市の薬剤散布に対して疑問を呈し、もっと生き物の力を活用した対策を検討してみたいと考えています。

６．その他の活動

・柏４小、高田小の総合学習で大堀川の活動の講演。目を輝かせて熱心に聴いもらえ、この子供達に良い環境を残したいと強く思いました。
・17 年に市のご尽力で大堀川沿いの 2 箇所に設置していただいた看板を使ってのクリーン化の啓発活動。小学校の生徒さん達が描いたポスターが人気です。
・環境関係のフォーラムや展示会への参加・出展。
・６号線下遊歩道開設（手賀沼まで連結）の促進。
・http://members.jcom.home.ne.jp/tutumida/TEST2/

７．今後の課題

活動を全員参加の基本活動と自主活動に分けるなど運営を工夫して活動の幅を広げてきましたが、会員数が頭打ちで女性会員が少ないなどでややマンネリ化傾向も否めません。今後も水辺清掃の拡充を中心に力強くフレッシュな活動となるよう工夫を続け、更に次のようなことにも取り組んでいきたいと思っています。

・看板等を活用した啓発活動の工夫強化
・水質改善活動（地金堀に魚生息環境作りの研究等）
・川を楽しむ活動の試み
・他の環境団体との交流提携

大堀川を中心に人と人、人と自然が親しみ合えるコミュニティーが出来ることを目指して活動を続けます。

団体名	岡発戸・都部の谷津を愛する会
代表者名	宮下和喜　（会長）
連絡先	鈴木明子（事務局） 〒270-1132　我孫子市湖北台 10-18-28　TEL：04-7188-1870
発足年	1999 年 11 月
会員数	120 名（一時は 500 名以上）
活動趣旨	岡発戸・都部の谷津の保全と谷津ミュージアムの実現をめざす

活動状況やこれからの目標など

１．　発足当初は、谷津のど真中に建設予定であった幼稚園建設に反対する運動に集中し、市長、市議会、県庁等への陳情を頻繁に繰り返した。

２．　2002 年に至り、市議会への陳情が採択され、市長及び幼稚園との交渉の結果、幼稚園建設は中止となり、市もここに谷津ミュージアムの建設を決断することとなった。

３．　この時期以後は、講演会、自然観察会、せり摘み会、ホタルを見る会、サクラを見る会、トンボ池及びショウブ池の草刈り等々の自然保護と結びつく活動を積み重ねてきている。

４．　なお、こうした活動と平行して谷津に生息する昆虫調査を実施し、その結果を「第１次報告書」（2003 年）、「第２次報告書」（2004 年）として印刷発行し、関係各方面に配布したが、最終報告書印刷の目途はまだたっていない。

５．　活動の目標は、岡発戸・都部の谷津の自然保全と谷津ミュージアムの実現である。

湖北座会

１．はじめに

私達の住む旧湖北村は我孫子市の中央に位置する。かつては純農村地域として、利根川と手賀沼にはさまれた風光明媚な台地に、先祖から受け継いだ貴重な自然・生活環境のもとで生活を続けてきた。しかし、このような環境も時代の変遷と共に年毎に変化し、農地林野の宅地化が急速に進んで緑は激減し、かつての「湖北村」の面影は年毎に消滅していきつつあるのが現状である。

そこで、このような時代の流れの中で「湖北」の良き面を末長く存続させると共に、地域の歴史を学び、そして自然・生活環境の保全、また地域のより良き将来づけを研究する事を目的として、地元の有志が発起人となり、昭和５８年(１９８３年)８月に「湖北座会」が誕生し、現在まで活動を続けている。会員数は平成１８年(２００６年)５月現在で７０名である。目的達成のためにこれまで次のような内容を実践した。以下その概要を述べる。

２．活動内容について

(1) 講演会の開催

年一度の総会にあわせて、本会の目的に沿う重要なテーマを設定して、次のような講演会を開催してきた。（ここ１０年間のみ記載した。）

平成６年９月（本会創立１２周年記念）
「美しい手賀沼をよみがえらすことは可能か」
西村肇

平成７年８月　「若者と宗教」　中村恭子

平成８年８月　「谷津田の開拓と技術について」
千葉徳爾

平成９年８月　「２１世紀と我孫子市を中心とした大気汚染と気象について」　杉浦茂

平成１０年８月　「旅する巨人・民俗学者、宮本常一の生涯」　佐野眞一

平成１１年８月　「星野七郎さんと手賀沼」
小林節子

平成１２年８月　「旅行作家が語る我孫子周辺」
山本鉱太郎

平成１３年８月　「成田線（我孫子成田間）開業１００年の足跡と湖北駅開設について」
澤紙利夫

平成１４年８月　「我孫子の埋蔵文化財」
石田守一

平成１５年８月　「湖北出身栗山栄子、議員生活を顧みる」　栗山栄子

平成１６年８月　「民具から学ぶ」　小川浩

平成１７年８月　「我孫子の地名と国土」
長谷川一

(2) 自治大学講座の開催

本会発足時より毎月１回の割合で開催、今年５月で２０９回となった。内容は多岐にわたり、古老からの聞き取りなど地域の歴史、自然・生活環境の問題など、その他多くの分野にわたり学習をすすめてきた。

(3) 古代米（赤米）の作付

湖北の赤米のルーツは、岡山県総社市本庄に

古代米の田植え

ある国司（くにし）神社の神餞米である。会員の柴田弘武氏が１９８７年に丹後を旅した折に知人よりこの種籾を分けてもらい、会では１９８８年に赤米研究班（当時班長田村正市氏、現在海老原一雄氏）を設けて、会員の休耕田（現在星野保氏所有田）をお借りして栽培を続けてきた。今年で１８年目となる。

毎年５月に田植、１１月に稲刈りをする。脱穀後の赤米藁は、湖北の「〆縄を創ろう会」が、１２月にこの藁を用いて市民を対象に〆縄作りの講習会を行っている。

(4) 民具・農具の収集（資料館作り）

資料館作りを進めてきた中で、これまでのいきさつを述べる。

平成元年（１９８９年）本会の総会において、「民具（含む農具）収集の会」を発足することが決定され、当時の大井市長宛「民具・農具館の設立について」を提案。その後いくつかの経過をたどり、平成４年海野建設株式会社よりプレハブ建物の寄贈を受け、湖北台５丁目（星野保氏所有地）に設立し、収集した民具・農具を搬入した。その後、同年１１月「民具・農具等の資料館設立に関する陳情書」を大井市長、鈴木一雄市議会議長に提出。これに対し１２月市長より「資料館の設立は長期計画策定への課題とし、当面民具・農具の資料の喪失を防止し、併せて小中学校の児童生徒の社会科教材の一助として空教室の有効活用をし、民具・農具・土器等の展示室（倉庫併用）を計画して参りたい」との回答があった。そして、平成５年湖北小学校敷地内空教室を利用し、「民具・農具・土器保存資料館」が完成した。翌６年仮倉庫より新資料館へ収集した民具・農具類を搬入し、展示の運びとなった。　（「湖北座会十年の歩み」民具・農具の収集によせて　星野保より）

(5) 古文書解読講座の開催

平成１０年５月より、先に述べた本会の目的の一つである「地域の歴史を学ぶ」その一環として月に１回の割合で開催している。講師は会員の品田制子氏と長谷川一氏である。

現在までに学習した内容は次のようである。

大井家文書（中峠）、阿曽家文書（古戸）、高田勝禧家文書（新木）、石井源左ェ門家文書（布佐）、増田家文書（布佐）などである。

この中で、大井家文書については「大井實家文書」として、平成１６年８月に発刊し、市内の中学校・高校・大学の図書館に、また国立国会図書館・都立図書館・千葉県立図書館・主な市立図書館に配布した。

(6) かまくら道の整備清掃

「湖北村誌」（大正９年刊）に「鎌倉街道とは中峠区二本榎八幡神社の南方にあり。康平年間（引用者註･･･１０５８～１０６４年）八幡太郎義家奥州征伐の折通過せしと伝ひらるゝ旧道にして、当時之れを奥州街道と云ふ。鎌倉時代に及んで鎌倉街道と称し、幕府へ参勤する諸士の往復も漸く頻繁を極め、旅客の往来も賑はへるものゝ如し。然るに時世の変遷に伴ひ、此の歴史的色彩を帯へる旧道も何時か廃れて、今は唯土人の口碑に残れるのみ･･･」と記されている。

又、湖北のかまくら道については「我孫子市史研究」第３号（１９７８年刊行）で、今林松子氏が「旧新木村の信仰とくらし」の中で「この辺りにもかまくら道あり」と記している。それから１０年宅地開発の波は新木地区にも押し寄せ、この地域に残るかまくら道も全く消滅してしまうことが恐れられ、その事態に対し本会としてこの「かまくら道」を可能な限り保存し

たいと考え、１９９１年地元の中野六郎氏の指導のもとで、この道の探査を実施した。その後、藪化した状態を整備復元し、毎年３月に会員の手で清掃を続けている。(「湖北座会十年の歩み」〝かまくら道〟星野保・湖北座会参照)

かまくら道が通過する中里市民の森の中に柴田弘武氏による「かまくら道」の本会によって立てられた案内板に、次のような文が記されている。

かまくら道

この道は古くから「鎌倉道」といい伝えられています。鎌倉道（鎌倉街道）とは幕府のあった鎌倉を中心として放射状に走る中世以来の古道で、この道はその下ノ道(鎌倉から常総地方へ通ずる)の枝道であったと思われます。

鎌倉道はいっぱんに山腹を通り、幅は１～２間（１．８～３．６メートル)、馬が２頭並んで通れる位の狭さで、とちゅう野営に便利なように井戸に近い所を選んでいるといわれます。また八幡宮・諏訪神社・氷川神社・熊野神社・禅宗・日蓮宗などの社寺の近くを通っているのも特徴です。

湖北の鎌倉道も手賀沼の北辺の台地の縁を縫うように東西に走っています。そして西から見ると、湖北台８丁目の八幡神社、中峠(なかびょう)の天照神社、湖北台１丁目にあった熊野神社、中里の諏訪神社、日秀(ひびり)の将門神社、新木の香取神社、大鷲神社（今は葺不合(ふきあえず)神社へ合祀）などの神社がその沿道にあります。また八幡神社下の元日(がんち)の井戸、熊野神社下の島の下の井戸、将門神社下の将門の井戸（石井戸)、香取神社下の香取の井戸などがありました。現存しているのは将門の井戸と香取の井戸だけです。

湖北の鎌倉道も造成などでだいぶ姿を消しましたが、いまなおこの中里市民の森付近（古代の相馬郡家(ぐうけ)《湖北高校付近》の南側）を中心に古道の面影を残している部分があります。現在湖北座会の手で清掃などの保全作業が行われています。

郷土のだいじな歴史遺産として永く後世に伝えたいものです。

２０００年４月１日　　湖北座会

かまくら道の整備

(7) 受賞について

本会創立以来現在まで次のような表彰を受けた。

1　平成６年　「柳田國男ゆかりサミット賞」第８回柳田國男ゆかりサミット　世田谷区長大場啓二

2　平成９年　「表彰状」　公益信託北野道彦郷土研究奨励基金　北野道彦選考委員長菅井幸雄

3　平成１２年　「感謝状」　道路愛護精神をもって道路の環境美化の推進に多大の貢献をされた　千葉県知事沼田武

4　平成１５年　「表彰状」　さわやかな環境づくり賞　我孫子市長福嶋浩彦

5　平成１７年　市制３５周年記念「表彰状」環境功労　我孫子市長福嶋浩彦

（鈴木敏彦、藤掛省吾）

沼南　手賀沼ボランティア会

■　会の発足まで

会長の山木が定年退職したのは平成７年６月でした。無為な時間を過ごす中、公民館での家庭介護教室を受けに行ったら、沼南ボランティア会への入会を勧められました。これがボランティアに足を踏み入れた最初の一歩でした。

そのうちにボランティアは福祉だけではなく、自分の趣味の山登りや、自然に触れられるボランティアがあっても良いと気づき、身近に手賀沼があり、長い間日本一汚いと言うことにも気づきました。早速、沼南町役場の環境保全課の窓口で尋ねましたが、『石ケンの会はあるが、あなたの言うような汗を流すような処はないですね』とのお答えでした。

地元の沼南町に希望する団体がないことには失望しましたが、近隣の柏や我孫子にはあるだろうと思いました。丁度その頃参加した『環境シンポジウムちば』で、今、我孫子で『美しい手賀沼を愛する市民の連合会』が発足していると司会者の紹介で知りました。早速、千葉県へ柏、我孫子の環境団体の紹介をお願いしたら、『We　Love 手賀沼』の１頁がコピーをして送られてきました。

『We　Love 手賀沼』を親水広場で求め、記事などを参考に、湖北座会と水と土・手賀沼の会へ入会し、例会へは積極的に参加しました。このような近隣の方と接触する中で、矢張り、沼南に環境団体がないことが、無言のプレッシャーとして感じられてなりませんでした。『いつかは沼南に環境団体を作ろう！』漠然とそんな思いを抱くようになりました。

でも、環境団体というのは、どんなことをするのだろうか？　分からぬことが多く、千葉県立中央博物館の環境講座。千葉県の環境講座『エコマインド』。その頃新聞発表された『尾瀬ボランティア会』、『千葉県緑のボランティア』等を受講、或いは入会して実体験を積みました。

このように１年間の内部蓄積をした末の、平成９年の年賀状へ『今年は手賀沼を綺麗にする活動を始めたいと夢見ています。はたして旨く行くでしょうか』と書いて出し、自分の励みとしました。沼南ボランティア会の会長さんからは『福祉も環境も基は同じ。是非やりなさい』と励まされ、同会の総会で会の発足の宣伝を、続いて沼南町ボランティア連絡協議会の総会でも会発足の宣伝をさせてもらいました。このような経過で、この日、平成９年４月２２日を私たちの会の発足日としました。

■　沼南　手賀沼ボランティア会の目的

環境は行政と住民とのパートナーシップの上に築かれるものです。行政は行政として大きな仕事をしていますが、私たちは私たちに出来る、遣らねばならないとがある筈です。

そんな信念の基に私たちにできることを探し、小さなことでも良いから、コツコツとやることにしています。

ゴミの山になっていた手賀沼の土手（手賀の丘下の水神様の近く）

■　主な活動内容

私たちの活動のメインは、旧沼南町に面した手

賀沼畔のゴミ拾いと、草刈りです。手賀沼へ遊びに来た人達が、ゴミを落としたり、草むらへ隠していくのではないかと想像して始めた活動です。

実際にはゴミは車で捨てに来る人が多かったのですが、草刈をすることで晴れ晴れした気持ちになれることから、継続している活動です。

更に、手賀沼の水を浄化するためには、いろいろな方法があり、私たちも理解をしておかねばなりませんし、市民にも取り組む分野が残されている筈です。見学会、勉強会はもう一つの大きなテーマになっています。

■　１０年間に実施したメイン行事

沼南　手賀沼ボランティア会は、発足して丁度９年が経ち、１０年目に迎えた処です。

この間に手賀沼も大きく変わりました。全国湖沼の水質ワースト・ワンを継続していた平成１２年までを第１期。北千葉導水路の注水が始まり、水質が徐々に改善されてきた平成１３～１５年を第２期。平成１６年以降は北千葉導水路の上に手賀沼自然ふれあい緑道が出来てきた時期で、第３期として考えることにします。

第１期は私たちの活動が始まった頃であり、私たちの活動も「キタナイ」事との戦いでした。約 400 ㍍間隔に設置された導水管の排気施設が、目隠しのある駐車スペースとして最適であり、ゴミ捨て場とトイレとを合わせた所でした。匂いはものすごく、濡れたゴミは取り扱うのに勇気が要りました。その頃の土手は背丈以上の葦が密生し、私たちの草刈り機では絶望的な量でした。

第２期になると私たちの活動に刺激されたのか、行政も草刈をするようになり、前記の駐車スペースには車の進入止めが作られ、私たちも遣り甲斐を感じたものでした。大型の機械で草刈に来た業者が『草の中はゴミだらけでどうにもならないヨ』と悲鳴を上げていた時期です。

第３期になるとガラッと変わり、見違えるような公園風になりました。私たちの作業もゴミ拾いから主体を草刈に移しました。特に、１７年度春に、「女性のための草刈り教室」をやり、ふれあい緑道の平坦な所なら、女性たちが大きな力を発揮するようになりました。１８年度からはここも指定管理者制度が適用され、委託業者の話では草が伸びない内に刈り、年間１５回も刈る計画とのことでした。どうも私たちの出る幕は無さそうです。東葛整備センターはうまく考えたもので、サイクリングロードの中央部から田んぼ側を指定管理者の受け持ち範囲とし、沼側は空いているとの話です。沼側の土手の斜面は急勾配で、慣れた男性にしか草刈り機は使用させられません。他の方法の作業を考え出さなければなりません。

発足当時の手賀沼の土手の上、場所は蓮の自生地前。
現在とは雲泥の差です。

■　見学会・勉強会の経過

見学会・勉強会は力を入れた行事でした。その経緯を追って見ます。

平成１０年度：８月　霞ヶ浦視察（霞ヶ浦インフォメーションセンター、土浦ビオパーク他）。
平成１１年１月　行政との懇談会（手賀沼浄化の体制について。県立公園と環境保全との関係について。……他）

平成１１年度：９月　国土交通省による手賀沼の施設見学（流域下水道終末処理場、手賀川浄化

施設、手賀の丘公園下の北千葉導水施設、北千葉導水第２機場他)。同１２月　行政との勉強会(環境基本計画)

平成１２年度:９月　アサザプロジェクトによる案内(潮来トンボ公園、延方小学校ビオトープ)。霞ヶ浦工事事務所で飯島さんの講演。平成１３年１月　東葛飾都市整備事務所による手賀沼自然ふれあい緑道の説明会。

平成１３年度:１０月　沼南町と東葛土木による案内（沼南町終末処理場、クリーンセンターしらさぎ、手賀沼ビオトープ、中の橋浄化施設、逆井リン除去施設)。14 年１月　東葛土木による学習会「手賀沼の浄化、過去とこれから」

平成１４年度:９月　柏市リサイクルプラザの見学と、江戸川工事事務所による北千葉導水路の松戸側とふれあい松戸川の見学。

平成１５年度:１０月　東京都墨田区　すみだ環境ふれあい館『雨水資料館』(先方に解説をお願い）他

平成１６年度：１１月　千葉県立体験博物館「房総の村」で体験をしながら１日を遊びました。

沼南町ボランティア連絡協議会の体験学習として手賀沼で活動しました

■　新聞掲載や受賞など

平成１２年６月には『ちば県民だより』の東葛版の『ガンバッテます』に当会が紹介されました。

また、平成１３年１月には東葛飾地区さわやかハートちば優良実践者表彰が決まり、ヘイアンプラザ柏へ赴き表彰状を頂きました。

平成１３年 8 月には堂本知事を迎えて沼南町中央公民館で『千葉なのはな県民会議』が開催され、山木会長が住民を代表して手賀沼周辺の環境問題について意見発表をしました。

■　これからの展望

ご承知の通り、沼南町は平成１７年３月２８日に柏市と合併しました。また、柏の環境団体がネットワークを組む場として、『かしわ環境ステーション』が平成１７年秋にオープンし、歩みだしました。山木も依頼を受けて、この仲間に入っています。

山木が所属する情報交流部会では、『沼南のミドリは柏の宝物だ。早く手を打たないと食いつぶされて手遅れになる』との危機感が訴えられています。

平成１７年秋の流域フォーラムで展示した沼南の谷津のパネルを見て、案内を請われ、18 年春に共に歩きました。沼南にある『教育の森』について調べに県の東葛農林振興センターを訪ねたのがキッカケとなり、『森林楽校』と言う講習会の開催に発展し、みんなで活用できる森として、広幡八幡の森が紹介されるまでの段取りが付いたところです。

まだまだ楽観は許されませんが、柏の人達の援助を受けながら、沼南のミドリが守られれば、嬉しいです。

大きな夢を少しでも実現させたい、力を尽くしたいと、希望を膨らませているところです。

（山木　健一）

団体名	生活協同組合我孫子生活センター
代表者名	檜山　四郎
連絡先 (ホームページ)	本部　我孫子市本町３－６－４　電話　04(7183)7288
発足年	昭和 56 年
会員数	約 1400 名
活動趣旨	「わ、広げよう安全な暮らし」をスローガンに身体や環境にやさしい商品だけを揃えた店舗制生協

活動状況やこれからの目標など

我孫子生活センターは、私たちと子どもたちの未来を「安全な暮し」にすることを目的として生まれた生活協同組合です。設立以来一貫して、絶えず、安全な食品・安全な商品・自然食品等の供給にこだわり続けて、すでに２０年の実績があります。

設立以来現在まで、商品の選定・販売はすべて「家族を思うお母さん達」によって運営され、生産者と目に見える信頼関係を最優先に実践しています。今後も一環してこの方針を続けていくつもりです。

設立以来、子どもや皆さんに食べさせたい・使わせたい商品だけを扱っております。手賀沼浄化のための石けん運動から始まった生協なので、合成洗剤は一切取り扱わず、洗濯用からシャンプー・はみがき等全ての石けん用品を揃えています。

現在市内に 4 店舗あり、それぞれの店舗には、農薬を使用しない野菜や、添加物を使用しない食品はもちろん、国の自給率を高めるためにも、国産原料を使用した食品を取り揃えております。

〔これからの目標〕

温暖化や異常気象等、年々地球を取り巻く環境は悪化しています。10 年後だけではなく、50 年後・100 年後を見据えた生活をおくることが早急に必要だと思われます。

地域に根付いたステーションで供給活動を行うことで、「わ、広げよう安全な暮らし」のスローガンが地域全体に広まることを目標にしていきます。

（早川　勇）

本町「我孫子店」

センターまつりで生産者とのふれあい

「手賀沼にマシジミとガシャモクを復活させる会」十年史

発足の経緯

美しい手賀沼を愛する市民の連合会は今年十周年を迎えたが、奇しくも「手賀沼にマシジミとガシャモクを復活させる会（以下マシジミの会)」も十周年を迎えた。

振り返れば、平成８年８月９日発行の柏市民新聞に、「･･･『手賀沼に貝や藻の復活試み』専門家と市民の有志で会を設立。手賀沼に生息していたマシジミとガシャモクを復活させようと調査研究に乗り出した。･･･」と報道されている。

会の代表は元島根大学農学部教授森さんで、前年１０月我孫子市白山に「緑土水（みどりとみず）の研究所」を設立し、会を発足させた。森さんと私は湖北座会の会員同志だったので、私も森さんに誘われ会員となった。当時の会の目的と事業は、手賀沼にマシジミとガシャモクを復活させるために次の４項目の実践活動を行うことであった。

１．泥こぎ（ヘドロの除去）を行う
２．マシジミやガシャモクの復活実験を行う
３．ヘドロで苗床土や堆肥を作り、栽培試験を行う
４．緑土水（農業漁業）を大切にした地域の文化興隆、まち・むらづくりを推進する

この様な状況のもと、同年９月１５日第一回全体会議を親水広場水の館にて開催。流域合同調査、合同会議を月１回実施しながら会の賛同者を募り、平成９年４月２９日「手賀沼にマシジミとガシャモクを復活させる会」が誕生、「美しい手賀沼を愛する市民の連合会」に加入した。

当初の活動の様子

平成９年９月３日には、会の目的・活動内容が評価され、アムウェイ・ネーチャーセンターの環境基金の助成を受け、会の活動も一段と活発になった。まず、平成８～１０年４１回延べ１３９人参加で、全流域の水生生物調査を実施。マシジミの生息が確認できた地点については、その後も調査を継続し、会員の専門委員を中心に生息条件等を研究してきた。

翌年森さんが退会されたこともあり、会はその名のとおり、手賀沼にマシジミとガシャモクを復活させることに焦点を絞って活動をしてきた。平成１１年から毎月１回（四木会）の勉強会を持つとともに、流域河川に生息するマシジミの調査、遠隔地（宮崎県・長崎県など）でのマシジミの調査・勉強、北九州市のガシャモク生息地「お糸池」の視察に加え、北九州市立自然史・歴史博物館との交流、千葉県立中央博物館でのガシャモク保全を実施してきた。

特筆すべきことは、会が発足した平成９年９月２８日に手賀川河畔の遊水地にガシャモクが自生していることが発見されたことである。１０月８日の横林専門委員による現地調査の結果、ガシャモクに加えササバモ・インバモ・フラスコモ・セキショウモ・コウガイモ等の希少植物の発生が確認され、現地には埋土種子があることが確認された。

これを建設省（現国土交通省）利根川下流河川事務所に報告、保存を請願。平成１０年６月１９日建設省が現地を視察し、保存されることとなった。これが縁となり、国土交通省利根川下流河川事務所とは、その後ガシャモク再生に向けて情報交換や実験などを協力して取り組んでいる。

ガシャモク再生に向けて

この他にこれまで埋土種子が発芽生育した自生地として、親水広場生態園、手賀沼ビオトープのガシャモク池、手賀川河畔再生実験池がある。いずれも埋土種子が発芽して多種の沈水植物の生育が見られたものの、翌年には見られる種類も激減し、2～4 年後に沈水植物は絶えてしまった。生育池が小規模で、水質の変化や底質の変化が激しいことに加え、ザリガニやオタマジャクシの食害を防ぐことができないことが大きな要因と考えられている。

2002.1.17 ビオトープガシャモク池の水干し作業
（ザリガニ･ウシガエル･大型魚などを除去）

平成１６年には国土交通省が、北千葉導水第２機場放水口先でガシャモクなどの植栽実験を行った。１年目は大きく生長したが２年目は生長が見られず、本沼での沈水植物の生長は未だ困難であることがわかった。

会では手賀沼漁業協同組合の協力の元、フィッシングセンターに培養水槽を設置し種の保存と増殖を行っている。そして手賀川河畔の国土交通省の再生池を利用して､新実験池を造成し、現在の手賀沼の水質でガシャモクなどの水草が生育できるかの実験を開始した。

2006. 6. 19　再生池での植栽実験

また、千葉県は「水生植物再生事業として、流域の学校で水草を育てて流域の適地に植えていく試みを始め、我孫子市でも水草の里親を募集し、谷津に植えようとしている。これらの事業に協力しながら、さまざまな場所で、おおぜいの市民が水草の再生に携わっていけるよう、会の活動を進めていきたいと考えている。

マシジミの再生に向けて

北千葉導水事業の開始により手賀沼流域の生態系は大きく変化している。平成１５年１１月、北千葉導水第２機場の放水口でマシジミが生息していることを確認した。それは利根川の水に乗って流れてきた幼生が定着したものと思われ、昨今全国的に繁殖が問題になっているタイワンシジミであることも確認された。その後かつては在来のマシジミがいたところが、タイワンシジミと混在したり、タイワンシジミのみになってしまった状況が明らかになった。

シジミの高い浄化能力を考えると、手賀沼浄化には朗報であるが、かつての生態系の復活をめざす会としてはとまどいもある。今後も調査を続け状況を明らかにしていくとともに、在来マシジミの手賀沼での増殖を試みていきたいと考えている。

会の活動報告は林専門委員の尽力により、会員の投稿も含め「手賀沼マシジミ・ガシャモクだより」としてカラー写真入Ａ４版４～８ﾍﾟｰｼﾞで詳細に報告され、平成１７年度末で実に４４号に達している。また、平成１７年７月には会員の行った調査・研究・活動をまとめて、「マシジミとガシャモクに関する調査・研究報告集」Ａ４版６６ページを発刊している。

以上のような活動に対して、日本河川協会より「河川の自然保護・環境学習・河川愛護等の活動があった」として、平成１８年度河川功労者（団体の部）として表彰の栄に浴した。

（星野　保）

美しい手賀沼の回復を願って

流山市立博物館友の会

流山市立博物館友の会が発足したのは昭和５３年１１月で、いまから２８年前のことである。そのとき私たち発起人は、わが会はこれから何をすべきかとテーマを検討し、すでに手賀沼研究や浄化の問題も浮上しており、そのことはいつも私たちの念頭から離れなかった。
なんといったって、手賀沼は東葛最大の湖沼であり、しかも大正時代、白樺派のすばらしい文人たちがそこに住んで活躍していたという事実は、私たちにとってたいへん興味あることである。それだけではない。手賀沼がわが国きっての汚い湖だということは、私たちの心を痛め、こりゃなんとかせねばという思いがいつもあった。

今までもずいぶん多くの人たちが手賀沼の汚染を憂え、講演会や写真展、さまざまな集いを開いてきたが、さっぱり解決されていないし、好転のきざしも見えない。もはや、そんななまぬるい方法ではあの栄光の手賀沼はヘドロで埋まり、野鳥もいなくなってしまうという危機感を持った。

手賀沼漁協の組合長である深山正巳さんは、昭和５９年１月、日立総合経営研究所で講演された講演録の中でこう述べている。

「手賀沼には併せて四十種以上の淡水魚が生息していたものが、僅か二十年程度経過の中で半減している状況です。」

キンブナ、ゼニタナゴ、チョウセンブナ、スズキ、メダカ、ヌカエビ、マシジミ、イシガイ、イシガメなどは絶滅したといわれる。モクズガニは味噌汁にするとうまいカニだといわれていたが、いまやほとんど見あたらないということである。

かつては沼底から清水がゆたかに湧き、飲めるほど澄んだ水であったが、今や生活雑排水のたれ流しで日本一汚れた沼という悪評を受けている。里の子たちが泳いでいた大堀川や大津川も今ではドブ川と化し、臭気を放っている。そして真夏になると、沼の表面を植物性プランクトンのアオコがおおい、多くのフナやコイが酸欠で白い腹を見せている。

遠い昔をとり戻すことはもうできないにしても、せめて日本一汚れているという汚名だけは返上したいと思った。

講演会やシンポジューム、写真展もいいが、もっと大量動員して啓蒙運動をくりひろげるには、オペラも一つの方法ではないか、ということに思い至り、作曲家の仙道作三さんの進言で私が台本を書き、オペラ「手賀沼賛歌」を柏で公演することになった。

全体の構成は三つのオペラのオムニバス。第一幕は千葉県の沼南町をテーマにした「日女若（ひめわか）物語」、第二幕は柏市を舞台にした「こんぶくろ池のうなぎ」、第三幕は我孫子市をテーマにした「手賀沼を愛した文人たち」と、それぞれの舞台が手賀沼周辺の汚染にかかわる町である。これに「序の曲」と「終曲大合唱手賀沼まんだら」がついて四時間近い大型オペラとなった。

全体を通して見たとき、あんな美しいかつての沼が、今や日本一汚い沼となったことに私たちがショックと恥じらいを感じ、なんとかせねばという思いに至れば、上演の目的は達成されたことになる。オペラは西洋のもので判らないという従来の固定観念に私たちはあえて挑戦してみた。日本人を描いた日本人による創作オペラを通じて、いま私たちが抱えている問題をどう考え、受けとめていくべきか。

合唱団をふくめて出演者は総勢５００人。舞台装置、照明、効果、会場整理、進行係りなどの裏方さんが２００人。各地から馳せ参じたオペラ実行委員は約１８０人。主役級は藤原劇団

や二期会、日本オペラ協会の第一線で活躍している人々をよりすぐり、指揮者には東京混声合唱団の常任指揮者田中信昭氏を迎えた。
構想から制作まで約二年、そして昭和６２年１０月２４日、２５日の両日、柏市民文化会館大ホールに三千数百名の観客を集めて大成功のうちに幕を閉じた。地域の文化づくり参加など考えてもみなかった人々が、いま参加して肌で感じとったあの熱い感動とは何であったか。

ああ人間さん、むかし天国これから地獄
ここは天国と地獄の間です
流れ出る涙のかたちの手賀沼です
わたしたちはみんな鳴かないわけにはいかない虫たちです

と、人間たちに問いかける公害に苦しむ虫たちの叫びが、１６ビートのリズムにのった大合唱となり、会場を感動の渦にまきこんで幕を閉じた。

この公演は朝日新聞の「天声人語」でもとり上げられ、次のように記されていた。

「四時間にわたる舞台の幕が、下りた。それから約十分間、客席を埋めた千六百人の拍手が続いた。ほおをつたう涙をぬぐう人びとが、幕をはさんで向き合っている。

オペラ『手賀沼賛歌』の本当のフィナーレは、幕が閉じた後、会場を満たしたこの共感の渦そのものだったろう。一度きりの公演を惜しみながら、この沼に澄んだ水を取り戻す夢がみんなのものになった。・・・・・・（略）」

この社会的大きな揺さぶりは、やがて北千葉導水などさまざまな大きな社会運動となってひろがっていった。

平成４年の秋、多くの人たちのアンコールにこたえて「手賀沼賛歌」は再演された。

私たちは機会あるごとに手賀沼の浄化を叫んできたが、これはやはり本にして広く訴えるべきだと思い、浄化への祈りをこめて平成２年７月「手賀沼読本」を１０００部崙書房より出版した。約３００ページで、あらゆるテーマが盛りこまれ、「手賀沼事典」ともいうべき大著となった。制作費３００万円は、友の会の会員の賛助会費と広告だけでまかなった。論文を書いた人が拠金し出来た本を東葛じゅうの図書館や博物館、小・中・高校などに寄贈して、手賀沼への認識を深めてもらうことにした。

ある者は、我孫子の生き辞引ともいわれる郷土史家の小熊勝夫さんのお宅を訪ね、あるものは手賀沼のほとりに住んでおられる加瀬完先生を訪ねて悲しい遭難の話をまとめたり、そのほか、手賀沼漁協組合長深山正巳さん、植物学者の斉藤吉水氏、漁師の武子隆一さんら多くの方々の懇切なるご教示をいただいた。

当時出版された本の目次をのぞくと、

手賀沼と「白樺」の文人たち	山本鉱太郎
手賀沼の淡水動物	深山　正巳
手賀沼の水鳥たち	羽根田光雄
手賀沼の汚染と対策	相原　正義
杉村楚人冠と湖畔吟社	西村喜美江
手賀沼と水車	鵜沢　滋子
手賀沼のうなぎ	菊池　光純
手賀沼干拓ときえゆく簀立て漁	間藤　邦彦
手賀沼周辺の民俗	青木　更吉
かつての手賀沼の鴨猟を追って	福島　茂太
沼はもう見えない志賀直哉旧居跡	茂木　朋子
手賀沼挽歌	上林　康子
手賀沼の水源を訪ねて	海老原澄子
手賀沼周辺の金石文	一色　勝正
手賀沼歴史年表	青木　更吉

文学散歩、我孫子楚人冠公園にて

その他手賀沼に関する多くの論文が収められ、画期的な手賀沼文献となり、新聞各紙がこの快挙を伝えた。

その後、平成７年１０月にも「東葛の湖沼と河川」というテーマで２６８ページの本を１０００部出版し、「手賀沼の野鳥と将来」「柏のこんぶくろ池の伝説」「東葛地域湖沼群の消長」などの論文を収録した。

私たちはこの二十数年間、手賀沼に関心を持つ多くの文化団体と連携してきた。我孫子の文化を守る会、我孫子市史研究センター、湖北座会、・・・・・・。私たち一団体だけでは何もできない。弱い団体だが力をあわせれば大きな力になる、という信念でこれまで運動してきた。

そして手賀沼の浄化をふくめて、東葛文化や環境浄化に貢献してきた個人や団体に対し私たちは北野道彦賞やヌーベル文化賞を贈呈して激励してきた。北野道彦賞は友の会創立メンバーの一人北野道彦さんが遺産約３０００万円を拠金して設立されたもので、賞金は１件３０万円。ヌーベル文化賞は柏市のヌーベル画廊の鈴木昇さんが売り上げの一部を拠金したもので、賞金は１０万円。その選考は私たちにまかされ、年一度の授賞式は友の会会員が中心になって運営し盛大である。

「手賀沼賛歌」が再演されてからもう１４年になる。手賀沼は浄化運動の波は少しずつ拡がっているのか。平成１３年には手賀沼は２７年間続いた水質ワースト１の汚名をようやく返上した。

しかし、いま諸団体は大きな問題を抱えている。浄化の旗ふりをしてきたリーダーやメンバーが老齢化し、いずれも後継者難にあえいでいる。いま、なぜこうした運動をすべきなのか、若者たちに理をわけて説得できる情熱の人がいなくなった。これは大きな危機である。

手賀沼浄化を願う多くの団体がこれからも結束して大きく声をあげ、ふたたび白樺派時代のような澄んだ沼にしたいものである。大自然に抱かれた湖沼をないがしろにし、粗末にする民族は滅びると、私は思っている。

（旅行作家：山本　鉱太郎）

利根運河に桜の植樹を終えて、コーラスを楽しむ

団体名	ＮＰＯせっけんの街
代表者名	比戸　寿代
連絡先 (ホームページ)	本部・手賀沼せっけん工場　　〒277-0803　千葉県柏市小青田 29-2 TEL:04-7134-0463　FAX:04-7134-7468　MAIL:info@sekkennomachi.org http://www.sekkennomachi.org/
発足年	１９８５年
会員数	個人会員３０５　団体会員４３
活動趣旨	NPO せっけんの街は使用済みのてんぷら油を集めせっけん、BDF に再生して販売しています。

活動状況やこれからの目標など

1980 年、湖沼ワースト１の手賀沼を守ろう！合成洗剤追放市民会議が発端でした。そして流山、柏、我孫子、沼南、３市１町で直接請求運動を展開し、各市町では石けん利用推進審議会、協議会が出来、今日のせっけん利用運動となっています。

このことから５年の準備をへて、1985 年、手賀沼せっけん工場が大勢の市民の出資でできあがりました。廃食油を集めて、せっけんにして、油を出した方にせっけんを買ってもらい、資源循環の輪を完結させてきました。

廃食油の回収

水にこだわり、資源循環をすすめていたせっけんの街は、2004 年大気、農政も含んだ新たな出発をしました。国、県、生活クラブ生協によりバイオエネルギー製造機が設置されました。なのはなエコプロジェクトに参加し積極的に進める事は、持続可能な社会づくりです。活動が評価され 05 年度バイオマス利活用優良表彰をいただきました。

せっけんの街の最も大切な事業に、環境学習があります。年間 30 件ほど授業をしています。小中学校、生協、婦人団体等です。

小学校で環境授業
“せっけん作り”

団体名	ホームサイエンス倶楽部
代表者名	代表　吉崎　裕
連絡先 (ホームページ)	277‐0044　　柏市新逆井２－３－１
発足年	平成５年
会員数	13 名
活動趣旨	本会は、身近な生活や自然について科学の視点から眺め考えていこうという生涯学習グループです。

私どもの会と手賀沼との関わり

本会と手賀沼や美手連との関わりについては、本会の生い立ちからお話するのが分かりやすいかと思います。

平成５年６月の「広報かしわ」の会員募集案内を見て、藤本治生会長が主宰される「ソフトエネルギー研究会」に入会しました。入会当初、私は太陽電池とかトランジスタ等について話していましたし、岡田正男さんは自宅で水生植物を用いた浄水実験をしており、ポンプ用電源に太陽電池を使いたいのだがと相談を受けました。それで会長と私は現場見学にいきましたところ、金魚池の水をクワイ植生池に流し濾過して金魚池に戻すという浄化方式で、これには感心しました。こういう事がヒントになって藤本会長は、のちに手賀沼湖面に筏を浮かべクワイを水耕栽培するプロジェクトを構想されました。

研究会の学習部会は、平成７年７月より寺島文化会館が会場として使えるようになり、ホームサイエンス部会として活動することになり、私が世話役になりました。部会の活動は毎月１回の定例会ですが、会員が持ち回りで話題を提供するというセミナー方式が何時の間にか定着し、時には外部講師を招いたり、見学にもしばしば出かけました。

平成９年に入ると、これまで基礎実験を重ねてきたクワイ水耕栽培の成果を実証すべく手賀沼湖面でのプロジェクトが発足しました。実際の労務作業は若いサポーターが担当し、私などは外部折衝にあたりました。手賀沼湖面の使用については、田口迪夫さんと私で星野美手連会長へ面会にいき協力を要請しました。その結果、湖面に接する農業用排水路が使えることになり、手賀沼プロジェクトが発足しました。また、研究会は美手連へ加盟し私が担当ということで美手連の理事になりました。

平成 12 年４月に、諸般の事情から学習部会は研究会から分離独立しましたが、分離にあたっては、皆さんの意見を聞いて現在の会名とし、美手連理事は引継ぎました。

平成 14 年に、星野保初代会長が退任され第２代会長に田口迪夫氏が就任され、私は事務局員として輔佐してきましたが、平成１８年度からは美手連理事に当会会員の田島秀宣氏になっていただき、私は監査を務める事になった次第です。

（吉崎　裕）

「ふれあい手賀沼の会」の歩み

１．発端

昭和６３年、我孫子市では「手賀沼浄化を考える市民講座」というのを開催された。週１回、連続５回の講座である。

☆　緑と水辺からのまちづくり
　　進士五十八氏（東京農業大学教授）

☆　アオコの正体をさぐる
　　高村義親氏（茨城大学教授）

☆　手賀沼の健康診断
　　田渕俊雄氏（茨城大学教授）

☆　環境と開発
　　佐藤公正氏（朝日新聞論説委員）

☆　手賀沼周辺のみどりの素顔
　　福嶋　司氏（東京農工大学教授）

さて、講座が終わってイザ散会というとき、だれ言うとも無く「このまま終わってしまってはもったいない」ということで、受講者同志がふれあいのもてるつどいを作ろうということになった。１５０人ぐらいだったかなあ。それが「ふれあい手賀沼のつどい（仮称）」である。仮目的は「手賀沼およびその周辺の自然とより深いふれあいを持つと共に、その浄化と環境の保全について学び、努力する。」ということで、まず発足をした。会ではないので、会長も会則もない。数人の世話人が行き当たりばったりの計画をたてる。

２．１年間の試行錯誤

まずイベントでは、探検隊と講演会を企画した。探検隊では大堀川および大津川の源流をさぐることから始めた。そこは家庭排水であることを見た。探検は水だけを見るのではなく、流域の自然や文化遺産にも目を向けることにした。地名の由来まで解説してくれる人がいて、「総合手賀沼学」とでも言えそうだった。（これが今も生きている）

講演会の方は、有志によるパネルディスカッション、大先輩星野七郎氏の講演会を実施したが、メインは我孫子市と山階鳥類研究所が共催する、手賀沼浄化を考える市民講座「水・鳥そして人」を聴講することにした。また、ニュースを書く器用な人もいて盛り上がったのである。

市民講座の様子

３．とにかく発足だ

きちんと運営していくために会組織として会費もいただかなければならない。議論百出して会則も作れないまま、平成元年４月、会を発足させ、その目的だけは「手賀沼およびその周辺の自然と文化について、ふれあいをもち、その環境の保全と浄化に役立つことを目的とする」と決まった。

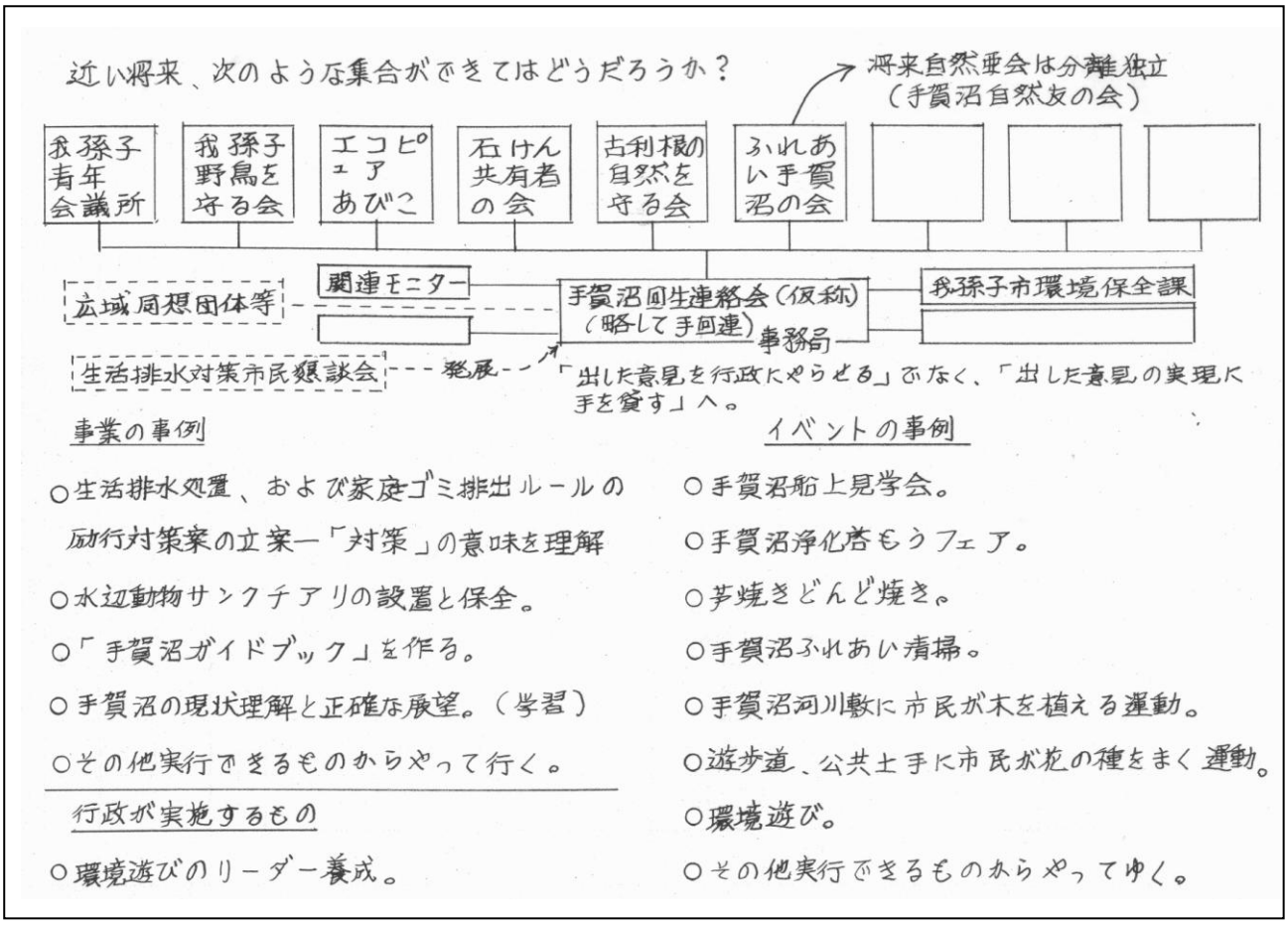
そして何をするのか、については、

(1) 一般市民への呼びかけ＝年６回ほどの探検隊または講演会など

(2) 意識のある人たちのサロン＝毎月１回便利のよいお店で

４．将来の構想

サロンで討議をしているうちに、次のような夢が浮かんできた。これは行政の企画に反対運動をするのではなく、パートナーシップの樹立を実現しようではないかとの提案で、会報１９号（平成５年６月１日）で発表。



ところで、その２年前の会報６号（平成３年４月１日）には、当会の現状は図のような２つの亜会の結合体になっていることを図示している。つまり、手賀沼浄化活動は、単独団体の活動範疇を超えるものであることを認識していた。そして、もしそのような連合体が発足すれば、「ふれあい手賀沼の会」ではなく、「水質亜会」は昇華し、「自然亜会」が分離独立することを予見している。

５．美手連の発足

それから２年後の平成７年、何と美手連が発足したのである。これで当会の水質亜会は昇華することになれば、「ふれあい手賀沼の会」は「手賀沼自然友の会」になるのかといえば、そうはいかない。会則は「自然と文化にふれあいをもち」であり、さらに「人と人とのふれあい」を培ってきた。そして、発足前の試行錯誤中から「総合手賀沼学」を求めてきた。やはり活動は会則どおり「ふれあい手賀沼の会」なのである。今、市内では、「手賀沼学会」「生涯学習あびこ楽校」などなどが発育中で、当会はそれらに関連する実践部隊と心得ている。

６．自然観察の基本

（その１）時間の軸で見る

「石にも人生がある」その誕生から死までの長い人生を。生物も手賀沼も、その歴史に目を向けよう。

（その２）科学と情緒の２本立てで

たとえば月を愛することを考えてみよう。前項で示すように、その成因を科学的に探求することに喜びをもつとともに、月を単なる物として見るのでなく、名月の夕べには、ススキとお団子を供えて拝む、という日本人の情緒も大切にしたいものだ。　　（田宮　克哉）

「古利根の自然を守る会」の歩み

美しい手賀沼を愛する市民の連合会が発足した 1995 年をさかのぼること 7 年前の 1988 年に、開発業者による古利根沼埋め立て計画をストップさせ、古利根の自然を残そうと、「古利根の自然を守る会」が結成されました。

当初は、できるだけ多くの人たちに「古利根」を知ってもらおうと、建設省等が企画した「利根川百景」や茨城県・朝日新聞社等が企画した「茨城自然 100 選」に精力的に応募し、両企画とも選ばれました。

埋め立てストップという第一の目標を達成し、2005 年に解散するまで約 16 年余の間、多岐にわたって活動してきました。

行政への働きかけ

会結成直後から、関係行政である我孫子市、取手市、千葉県、環境庁に対して古利根の保全を要請してきました。特に我孫子市との話し合いは 30 回以上にもおよびました。内容は多岐にわたり、沼、流入・流出水路、森と古利根全域におよぶものでした。

会の活動

・会報「古利根だより」の発行

1988 年 9 月発足から 2005 年 3 月末解散までの間、95 号の会報を発行し、古利根情報を提供してきました。

1989年(平成元年)1月27日　金曜日　朝日新聞

古利根沼がピンチ！

自然の宝庫に開発の手　千葉県我孫子市

古利根沼―千葉・茨城県境にあって、首都圏では貴重な自然を多く残す、古利根川の流れだった沼が、現代の開発業者に狙い撃ちされ、埋め立てのうえ、分譲宅地に変えられる危機にひんしている。チョウセトンボ、珍たちの棲域を破壊し、珍な地盤沈下につながる乱暴だ、とにわかに反対運動が起きたものの、沼の所有権が業者に移ってしまったいま、運動はいかにも無力にみえる。

古利根沼、上方は手賀沼＝千葉県我孫子市で、朝日新聞社ヘリコプターから

権利ほとんど業者取得
不安がつのる反対運

古利根沼は、大きく蛇行していた利根川の流路が、明治の利川改修で残った三日月沼。漁川として昭和のはじめ、付近の農民たちに潮から私い下げられた。

地元の千葉県我孫子市は、茨城県側の取手市と協力して、ことを自然公園にする計画を立て、市議会もその線の解決をしている。

首都圏では貴重な沼の昆虫

静寂に包まれる古利根沼＝昆虫の宝庫とともに「古利根の自然を守る会」の板橋一好さん撮影

蛍、鳥類が数多く住み、ヘラブナ釣りの名所としても知られる。

建設省関東地方建設局の「利根川百景」や、「茨城の百OO選」に選ばれていいが、我孫子市が特から貸い上げたち点、交渉が始

古利根沼がピンチ！

・クリーン活動

沼周辺、毎月 1 回の清掃と年 3 回の大規模清掃活動を行ってきました。なお、1993 年より我孫子市主催の清掃活動も加わりました。1991 年にゴミ箱を設置し、2001 年撤去するまでの 10 年間、地域会員によるゴミ箱の分別管理も行われていました。

・保全・復元活動

沼縁については、開発業者に無断で、ミドリシジミが乱舞することを想像しながらハンノキ幼木を移植したり、ハンゲショウなど湿地性植物群落保護のため、車止めや保護柵を設置したり、トンボ池を整備したりしました。

森については、1999 年に「古利根みどりのボランティア」が発足するまでの間、低草木が復活することを念じながら、我孫子市の暗黙の了解のもと、ササ刈りを行ってきました。

・観察・調査活動

古利根の実態を把握するため約 200 回にのぼる観察・調査活動を行ってきました。その結果をまとめたものを次に示します。

- 古利根の自然ウォッチング
- 古利根自然ウォッチングレポート
- 古利根ミニガイド
- 古利根自然観察の森レポート
- 古利根水鳥調査レポート
- 古利根自然観察の森西地区下草リスト
- 古利根（斜面林下）開花植物の調査報告
- 布佐地区バードウォッチング報告
- 古利根のクモ調査観察報告

・古利根アピール

- リーフレット配布　1 号 3000 部、2 号 10000 部
- ポストカード作成販売
- 古利根のシンボル「ミドリシジミ」の七宝焼ブローチ作成販売

・イベント

- 沼岸に手作り案内板を設置し、ミニコンサートを行う
- 釣り大会を行う（4 回）
- 結成 1 周年記念「菅原やすのり」コンサート　文化祭を行う
- 柏そごうで写真展を開催（2 回）、銀行等でミニ展示（4 回）
- 湖北台団地祭り、我孫子産業祭り（9 回）に出店

活動表彰

会の活動が評価され、次のような表彰を受けました。

1995.7　河川愛護表彰（建設省利根川下流工事事務所）

1996.11　環境美化表彰（日本善行会）

2000.1　東葛地区「さわやかハートちば」優良実践者表彰

2000.10　「さわやかハートちば」優良実践者千葉県知事賞受賞

2000.12　「我孫子市景観賞」受賞

2002.2　千葉県視聴覚ライブラリー連絡協議会会長賞受賞

ビデオ「古利根の自然」（我孫子ビデオクラブ制作）

2003.5　「我孫子市さわやかな環境づくり賞」受賞

（以上　古利根の自然を守る会資料より抜粋）

沼が我孫子市のものとなり、緑のボランティアの活躍ですばらしい古利根になることが期待されます。「すばらしい古利根」とはどういうものをさすのかということに言及したとき、人によってばらつきがあるとは思いますが、多くの在来生物種が生息し、散策するときほっとするエリアになることでは合意できるのではないかと思います。

（川俣　忠紀）

水と土・手賀沼の会

かつてこのかいわいの憩いの場は手賀沼でした。手賀沼漁業協同組合の深山正巳さんの資料によれば、１９６５年頃の手賀沼には魚類３９種がすみ、水生植物３４種が育っていたということです。従って、野鳥や水鳥が生息するのに格好の地域でした。ところが１９７０年頃から、魚介の種類数は半分以下、水生植物はマコモ、ヒメガマ、ヨシ、ハスの４種類になってしまいました。鳥やその他自然も同じような運命をたどらざるを得なくなりました。鴨も１シーズン６万羽ぐらい来ていたそうですが、今はせいぜい３千羽ぐらいだそうです。

手賀沼が日本一の汚れ沼（COD２５mg/L ）になったとき、常磐線が複々線になり、柏市では、再開発第１号である柏駅東口の再開発が行われ、市制２０年、人口２０万人突破が祝われていました。駅前が開発によって近代的になるのと裏腹に、手賀沼は日本一の汚れ沼になったというわけです。

大堀川は合成洗剤の泡の川のようでした。大津川の河口では泡玉になって、田畑に浸透して作物を枯らせる。その水が手賀沼に注がれるわけです。春から秋にかけては、手賀沼周辺には、ヘドロ・アオコの腐臭がたちこめました。脊椎の曲がった鮒、腹に穴の開いた鯉がたくさん見つかり、霞の日の一夜数千尾の魚が浮かび上がったのです。

まずは自分たちの足で歩いて、手賀沼を知るということ、次に、手賀沼の関係を見極めること、自然を守るのが本当の文化活動であるとして、合成洗剤をはじめ、農薬・殺虫剤など、自然を破壊する物質に抵抗していくこと、そして汚染日本一という手賀沼の現状は、工業中心の波をもろにかぶった日本社会の縮図でもあって、その矛盾の上に、日本の政治があるという認識をもちました。

このような視点をもって、「手賀沼駄弁里村通信」（水と土　手賀沼の会発行）も定期的に出し始め現在に至っています。

外側からの都市づくりではなく、自然である人間そのものを尊重する都市をつくるためにはこれからどうしたらいいか、ここ数年、「水と土手賀沼の会」の仲間たちは考えてきました。経済性、便利性だけを追うことをやめて、地球と地域の自然破壊を守り、有限の資源を大切に使い、人の心身の健康を目指す街づくりをしたいと。

「手賀沼駄弁里村通信」は昭和５４年(1979年)に第１号が発行され、当初は月１回の発行でした。当会の創立当時の会員も、年とともに加齢が進み、亡くなられたり、体が弱ってきて、会の活動に参加できなくなるなどの日常になってきました。若いエネルギーの導入がほしい時期であると思われます。

行政と市民が一体になって手賀沼の環境浄化を推進してきたことは事実です。一時は COD の値が２８mg/L という酷い状態から、１０mg/L 以下にまでなりました。これは北千葉導水路の完成で、利根川の水が入ったことにより化学的指標が良くなったのです。しかしながら自然の生態系が蘇ってこそ、手賀沼の美しい自然が蘇ってこそ、手賀沼の美しい自然環境が再生したと言えると思われます。水鳥や魚の数が減少していることをどう認識すればよいのか。植物プランクトンと動物プランクトンの減少と、種類が変わってきたことは大問題であると考えられます。別の表現をすれば、供給されている水の量は多すぎるのではないでしょうか。適正量を決めて沼に導入することを希望したい。

さて、当会は設立以来、手賀沼情報の発信基地としての自負を持っており、毎年一週間の日程で、「かしわ市民美術サロン」を使用して、「手賀沼展」を友誼団体と共同で開いてきました。近年はそのエネルギーが減少してきたために休

止しております。

最近は「地産地消」ということで食糧問題に関心を寄せ、我が国の食糧の自給率の問題、輸入食材の安全性等について学習会を開いています。さらに有志が集って米作りに挑戦しています。三反歩の圃場を借りて汗水を流しています。無農薬・有機栽培を進めています。田植えは手植え、稲刈りは鎌（鋸刃のもの）で行うということもしております。

今年に入ってから柏市の湧水の現状確認作業を始めました。

①名戸ヶ谷　②小橋戸　③増尾　④駒込　⑤寺谷ツ　⑥戸張　⑦宿連寺　⑧新利根　⑨大室　⑩松ヶ崎　⑪小袋池弁天池　⑫高田野鳥公園が現在確認されたところです。

地表に降った雨が地下に浸み込み、地下水になったり、樹木の根付近に蓄えられます。この水が時間をかけて地盤の割れ目などから再び地表に表われるものが湧水です。

昭和３０年代には東葛地域には百数十ヶ所の湧水があったと言われています。湧水の復活は手賀沼の将来をも明るくするかもしれません。本腰を入れて活動を続けます。

（田口　迪夫）

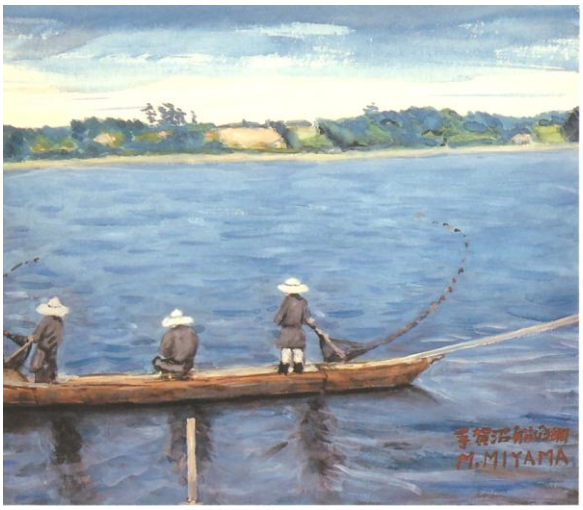
２００２年「手賀沼駄弁里村通信」

団体名	手賀沼漁業協同組合
代表者名	組合長　深山　正巳
連絡先 (ホームページ)	千葉県柏市曙橋字若鮎１番地　TEL：04-7185-2424 http://www.teganuma-fish.com/
発足年	昭和 24 年 12 月 5 日
会員数	２５６名
活動趣旨	内共第７号(手賀沼)、内共第 15 号(利根川)の漁場管理 組合員が漁業権を行使するための漁場の管理

活動状況やこれからの目標など

明治 35 年頃から組合としての実態はありましたが、昔からほとんど専業者はいませんでした。それでも干拓以前は漁業を主な生業としていた人も多かったのですが、現在はそういう組合員もほとんどいなくなりました。

利根河口堰が、利根川だけでなく手賀沼の漁獲高にも大きな影響を与えています。今の河口堰の魚道では、鮎や鰻の稚魚が遡上できないので、数年前から水資源公団に改造をお願いしているところですが、なかなか実現しません。



「船曳網漁」　絵：深山　正巳

手賀沼の汚濁がすすんだときは、底質が油で汚れ、それが付着したコイ・フナは売る事ができませんでした。魚体が小さいモツゴだけは佃煮原料として売れました。

手賀沼で漁業権の指定されている魚種は、コイ・フナ・ワカサギ・ウナギで、利根川では、コイ・フナ・ソウギョ・ウナギです。そのため、ウナギはシラス(稚魚)を毎年１００kg ほどを放流しています。ワカサギも卵を放流しています。ウナギはまだ時折、張り網にかかる程度しか戻ってきていません。ワカサギは、汚濁がひどかったときは、浮遊性有機物が卵に付着して死んでしまったのですが、水がきれいになって少しずつ復活してきました。

手賀沼がきれいになって徐々に魚が復活するものと期待しています。

＜最近気になること＞

- 南部手賀沼から手賀川に注ぐ水路で、多数の魚やカラスガイが死んでいるのが見つかりました。ここに注ぐ田んぼで使用した農薬が原因と考えられます。
- 明らかにペットを放流したものと思われるような生き物が見つかります。最近では、体長８０ｃｍの「アリゲーター・ガー」が見つかりました。このアメリカ・メキシコ原産の「アリゲーター・ガー」は、２～３ｍにもなる危険動物です。人も襲うのではと懸念されています。

手賀沼を愛し、モラルを持って保全していきたいものです！　　（談：深山正巳）

自治労我孫子市職員組合

自治労柏市職員組合

自治労鎌ヶ谷市職員組合

自治労流山市職員組合

美しい手賀沼を愛する市民の連合会　会則

第１条（名称）　本会は「美しい手賀沼を愛する市民の連合会」と称する。

第２条（目的）　沼と共に生きる周辺地域の自然・生活環境のより良きあり方を学習し、美しい手賀沼によみがえらせることを目的とする。

第３条（事業）　本会は第２条の目的を達成するために次の事業を行う。

１　学習会の開催
２　情報の収集・交換及び提供
３　手賀沼浄化、環境保全・整備についての提言
４　手賀沼浄化の達成及び環境保全・整備について、市民及び関係機関との連携強化
５　手賀沼浄化のための実験及び事業
６　その他目的達成のための事業

第４条（会員）　本会は手賀沼周辺の沼に関わりをもつ団体で、本会の目的に賛同する者をもって会員とする。沼周辺地域以外であっても、目的に賛同する団体は会員となることができる。

第５条（役員）　本会に次の役員を置く。会長　１名、　副会長　２名、　会計　１名、　理事　若干名、　監査　２名

第５条の２（役員の選出）　役員は総会において選出する。

第５条の３（役員の責務）

１　会長は会を代表し会務を総括する。
２　副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはこれを代理する。
３　会計は会の経理をつかさどる。
４　理事は会長を補佐し、本会の運営にあたる。
５　監査は会の経理を監査する。

第６条（顧問）　本会に顧問を置くことができる。顧問は役員会の議決による。顧問は会議に出席して意見を述べることができる。

第７条（会議の種類）　本会に次の会議を置く。

１　通常総会　　２　臨時総会　　３　役員会

第８条（通常総会）　通常総会は本会の最高議決機関とし、年１回開催する。次の事項を討議し、出席者の過半数をもって決定する。

１　事業計画及び事業報告に関する件
２　予算及び収支決算の承認の件
３　役員選出の件
４　会則の変更に関する件
５　その他重要な事項について

第９条（臨時総会）　臨時総会は会長が必要と認めた時、または役員の三分の一以上の請求があった時、開催する。

第１０条（役員会）　役員会は会の運営に関する協議機関とし、定期的に開催する。

第１１条（役員の任期）　役員の任期は２年とし、再選を妨げない。

第１２条（召集及び運営）　会議は会長が召集し、役員会の議長は会長がつとめ、総会の議長は総会において選出する。

第１３条（経費）　本会の経費は会費および寄付金その他の収入をもって充てる。

第１４条（会費・会計年度）　本会の会員は会費年額５０００円を年度当初に納入するものとする。本会の会計年度は毎年４月１日に始まり３月３１日に終わる。

第１５条（事務局）　本会に事務局を置き会務の処理をつかさどる。

１　事務局長は役員会において役員のうちから選任する。
２　事務局書記は事務局長の指名とする。

付則

第１条　本会の事務局は会長宅におく。

第２条　会則に定めない軽易な事項については、そのつど役員会において討議決定する。

第３条　この会則は平成７年１２月３日より施行する。

美しい手賀沼を愛する市民の連合会１０年の歩み

編集・発行
美しい手賀沼を愛する市民の連合会

2006 年 9 月 2 日発行